

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2026年 5-6月

「神のみかたちを回復する」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「わたしたちは贖罪の日にいる」 3

朝のマナ

「神のみかたちを回復する」 4

Restoring the Image of God

力を得るための食事

「豆乳マヨネーズ」 68

レシピ

お話コーナー

「天へと歩いて入った人(II)」 70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2026年3月5日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Joe Maniscalco on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

わたしたちは贖罪の日にいる

わたしたちは、罪が告白と悔い改めによって先立って裁きの座に行く、大いなる贖罪の日にあります。神は、神に仕える牧師たちの無気力な、霊のない証をお受け入れになりません。このような証は、現代の真理ではないのです。この時代のメッセージは、神の教会を養う、時にかなった食物でなければなりません。しかしサタンは、このメッセージから力を奪い、人々が主の日に立つ備えができないようにさせています。

1844年にわたしたちの大祭司は天の至聖所に入れられ、調査審判の働きを始められました。死んだ義人の裁きが神の前に取り上げられています。その働きが終わると、生きている者に審判が宣告されます。この厳粛な時は、本当にかげがえのない重要な時です。わたしたち一人ひとりが、天の法廷における決定を待っているのです。わたしたち一人ひとりが、この世で行ったことに従って裁かれます。地上の至聖所で大祭司が贖罪の業を行っていた犠牲制度において、人々は罪があがなわれて消し去られるために、それを告白し神の前に身を悩ますことを求められました。キリストが天の聖所において、その民のためにとりなしておられる今日はあがないの日の実体であって、最終的な、変更できない決定が宣告されようとしているのです。今は、昔のあがないの日以上のことが、わたしたちに要求されているのではないのでしょうか。

この恐るべき厳粛な時に、わたしたちはどんな状態でしょうか。…聖書を調べて、わたしたちが世界歴史のどこにいるかを知しましょう。この時代に、わたしたちのためになされていることをよく理解し、あがないのわざが進められている時にわたしたち罪人の置かれている立場を、よく理解するようにしましょう。もしわたしたちが、自分たちの魂の救いについて少しでも関心があるなら、わたしたちは決定的に変わる必要があります。真に悔い改めて主を求め、深い悔悟の念をもって罪を告白し、それが消し去られるようにしなければなりません。…わたしたちは恵みの時の終わりに急速に近づいています。神の前に自分がどんな状態であるか、だれもが問うてみなければなりません。いつキリストがわたしたちの名前を呼ばれるか、そしていつわたしたちの裁きが最終的に決定されるか、わたしたちにはわかりません。どんな決定になるのでしょうか。わたしたちは義人とともに数えられるのでしょうか。それとも悪人とともに数えられるのでしょうか。(レクテッド・メッセージ 163, 164 (日本語))

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



5-6月

5月 結婚：わたしたちの益のために計画された

6月 家族の輪

ふさわしい助け手

「人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。」「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」（創世記 2:20,18）

主はご自分のすべての被造物のうちで、この最後にして最も気高い者を喜ばれ、彼が完全な世界の完全な住民となるよう計画された。しかし、人が孤独に暮らすのはこのお方のご目的ではなかった。（ユース・インストラクター 1899年8月10日）

アダムが創造されたあとで、彼に名をつけてもらうために、すべての生物が、彼の前につれてこられた。彼はどの動物も対になっているのを見た。しかし、それらの中には、彼に「ふさわしい助け手が見つからなかった」。神が、地上で創造なさったすべての生き物の中には、人間にふさわしいものはいなかった。また神は言われた、「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」（創世記 2:20,18）。人間は孤独な生活をするように造られたのではない。彼は、社交的な存在でなければならなかった。もし伴侶がなければ、エデンの美しい光景も、愉快的な労働も、完全な幸福を与えることはできなかったことであろう。天使たちとの交わりでさえ、同情と伴侶を求める彼の願望を満足させることはできなかった。愛し愛される同じ性質のものがいなかったのである。

神ご自身が、アダムに伴侶をお与えになった。神は、「彼にふさわしい助け手」すなわち、彼にちょうど合った助け手、彼の伴侶となるにふさわしく、彼と一つになって、愛し、同情することができる者をお与えになった。（人類のあけぼの上巻 20,21）

神は男から女を造られた。それは女が男の伴侶となり助け手となり、彼と一体となって彼を慰め、励まし、祝福し、その代わりに男が女の力強い助け手となるためであった。……

キリストから発散する天来の愛は人間の愛情をこわすことは決してなく、かえってそれを包含する。人間の愛はそれによって洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は天の性質と結合し、天に向かって成長するように訓練されなければ決して尊い実を結ぶことはできない。イエスは幸福な結婚、幸福な妒辺を見ることを望まれる。（アドベンチスト・ホーム 99,100）

5月2日

助け手としての女

「そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。」(創世記 2:21,22)

エバは、アダムのわきから取られたあばら骨によって創造された。このことは、彼女がかしらになって彼を支配するのでもなければ、彼よりは劣った者として彼の足の下に踏みつけられるものでもなく、同等のものとして、彼のかたわらに立ち、彼に愛され、守られるものであることを示している。男の一部分、彼の骨の骨、彼の肉の肉として、彼女はアダムの第二の自分であった。そしてこの関係には、密接な結合と深い愛情がなければならないことを示された。「自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、……おのれを育て養うのが常である。」「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」(エペソ 5:29, 創世記 2:24)。

神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」(ヘブル 13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであった。また、それは、墮落後、アダムが楽園の門から持って出た二つの制度のなかの一つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。(人類のあけぼの上巻 21)

初めに安息日の律法が人に与えられたとき、結婚の律法も与えられた。そのとき神はご自分の二つの大いなる賜物一伴侶としての女と休息の日としての安息日一を人にお与えになった。神は、女が聖なる婚姻で人と結ばれ、榮譽の冠となる子供を育て、天の家族の象徴となる家族にすることを定められた。(原稿リ-ス 10 巻 197)

結婚関係におけるあなたがたの交わりは、親密で愛情深く、きよらかで高貴で、あなたがたの生活に靈的力を吹き込むものでなければならない。それは、あなたがたが神のみことばが要求しているとおりのもとなるためである。(7ドベンチスト・ホーム 114)

互い結び合う

「人は言った。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。』それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:23,24)

神ご自身が聖なる夫婦を結びつけられた。そしてこの最初の結婚がすべての結婚の模範となるべきである。(ユース・インストラクター 1899年8月10日)

最初の聖なる夫婦を造り、彼らのために樂園を造られたお方は、結婚制度に印を押し、エデンで最初の儀式を執り行われ、そのとき明の星は共に歌い、神の子らはみな喜びよばわった。(天国で 202)

創造主は聖なる二人に結婚の契りを結ばせて、「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」と仰せになった(創世記 2:24)。創造主は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達
の律法であった。(祝福の山 79)

もし心がわたしたちの家族の中で優しく保たれているなら、もしお互いの好みや意見に気高く寛大な敬意を払うなら、もし妻が夫に礼儀正しい行いで、自分の愛を表す機会を探し求めているなら、また夫が同じ考えを表しつつ、妻を親切に評価するなら、子供たちは同じ精神にあずかるものとなる。感化力は家中の者に浸透し、家族の中でなんと不幸の潮流がなくてすむことであろうか!

結婚の契約において、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのである。であるから、彼らは、いらいらした言葉や不満の言葉を押さえるために、結婚以前よりなおさら注意深く、最大限に努力しなければならない。なぜなら今や彼らの運命は、夫と妻として一生の間結ばれており、互いの価値は、結婚前にそれほど熱心に求め、重んじた愛を持ち続け、新鮮に保つためになされる骨折りの努力の量にちょうど比例して評価されるからである。(天国で 206)

天のもっとも麗しい型は主の御霊が統括しておられる家庭である。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1892年11月14日)

5月4日

人はいつ結婚の準備ができるか

「外で、あなたの仕事を整え、畑で、すべての物をおのれのために備え、その後あなたの家を建ててがよい。」(箴言 24:27)

あなたは自分自身の品性が完全に確立する前に、結婚関係に入ろうと熱望し、家族の世話を引き受けるべきではない。(教会への証 5 巻 74)

わたしは……自分が目指すべきだと考えてきた高い標準に到達するための努力において、知識と経験と成功を得るまでは、若い男性にはめとることがないように、また若い女性にはとつぐことがないようにと、警告する。(出版伝道 74)

むかし、花婿は結婚の約束が批准される前に、ある一定の金額、あるいはその時の事情に応じて同額に値する他のものを、妻の父親に取めねばならない習慣があった。これは結婚関係に対する保障と見なされた。父親たちは、家族を養う準備もできていない人に、自分の娘の幸福をまかせることは安全でないと考えていた。彼らが事業をうまく処理して土地や家畜を手に入れる力がなく、節約する心がなければ、彼らの生活は役に立たないものになるとおそれられた。だが妻のために支払うものが何もない人のために一つの方法が設けられていた。彼らは、要求された結納金に従って定められた一定の期間、愛する人の父親のために働くことを許されていた。……

この古代の習慣は、ラバンがしたように、ときには悪用されることがあったにしても、よい結果をもたらした。花婿が花嫁を得るために働くことを要求されたとき、性急な結婚は防ぐことができた。家族を養う彼の能力ばかりでなく、彼の愛情の深さをためす機会もあったわけである。今日これと反対のコースがたどられているために多くの悪が生じている。

男はだれでも、経済的能力がないことは許されない。親切で、気立てがやさしく、寛大でよい人であり、クリスチャンであるが、自分の仕事をうまく処理する能力がないといえる人が大勢いる。金銭に関する限り彼はただの子供である。彼は独立の原則を理解し実行するよう親に教えられて成長しなかったのである。(7 ドベンスト・ホーム 90, 91)

夫—ハウスバンド—の上には、親切と愛と調和という絆によって家庭をひとつにまとめる大きな責任がある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 2 月 23 日)

真の女性の美しさ

「賢い妻はその夫の冠である、恥をこうむらせる妻は夫の骨に生じた腐れのようなものである。」(箴言 12:4)

家族の幸福は、大いに妻であり母親である者にかかっている。

若い青年は、彼のかたわらに立って生涯の重荷を分かち合うにふさわしい人、すなわちその感化力が彼を高尚にまた精練し、その愛のうちに彼を幸福にする人をさがしなさい。結婚生活はロマンスだけではない。そこにはそれなりの真の困難や家庭のこまごました事情がある。妻は自分のことを、面倒を見てもらう人形ではなく、女性として見なさなければならぬ。すなわち自ら、想像上ではなく真の重荷を引き受け、理解と思いやりの生涯を送り、自分自身のことよりも考えるべき他のあることを考慮すべき者として考えなければならぬ。(信仰によってわたしは生きる 256)

当世風に着飾った若い女性が通りにいた数名の紳士のわきを過ぎるときに、そのうちの一人が彼女についていくつか尋ねた。答えは、「彼女は自分の父親の家で美しい飾りを作っています。しかし、それ以外は何の役にも立ちません」であった。(教会への証 4 巻 644)

旅行中、わたしは家庭の義務のための準備がまったくできないまま結婚生活に入った女たちが幸せでないことを見た。彼女たちは、もっとも厳粛な誓いによって果たすことに同意した責任のある立場にふさわしくなるための訓練や教育を若いときに受けなかった。親は大きな間違いを犯した。子供のときに、彼らは「思いを豊かにするために」骨折り仕事を免除された。彼らは楽器を引くことはできたが、責任を引き受ける教育を受けなかった。彼らは自分たちの思いを小説に没頭させたが、自分たちの家を秩序のうちに保とうとする愛好心はなかった。……青年たちの品性は甘やかしすぎる母親によって台無しにされてはならない。親は、自分たちが家庭の仕事や経済において自分たちの娘を徹底的に教育することを怠るとき、彼女たちの将来の結婚生活を惨めにするような品性を与えているのだということ、考慮すべきである。(健康改革者 1873 年 5 月 1 日)

わたしは主の御霊によって、ふるまいの慎ましさを大切にし、恥を知る節度をもって、控えめになることを、信心を公言するわたしの姉妹たちに強く勧めるようにとかりたてられるのを感じる。(教会への証 2 巻 459)

5月6日

結婚はわたしの奉仕を さらに増進するであろうか

「もし妻に結ばれているなら、解こうとするな。妻に結ばれていないなら、妻を迎えようとするな。しかし、たとえ結婚しても、罪を犯すのではない。また、おとめが結婚しても、罪を犯すのではない。ただ、それらの人々はその身に苦難を受けるであろう。わたしは、あなたがたを、それからのがれさせたいのだ。」(コリント第一 7:27,28)

親や子供、妻、夫、土地、あるいはそのほか地上のどんな宝でも、友人であれ所有物であれ、利己的に愛することによって、思いや時間や奉仕を神からそらさせる偶像としてはならない。富を愛して仕える人は、神を最高に愛して仕えることはできない。友人や関係を不適切な愛情をもって愛するとき、彼らは神のおられるべき場所を心から奪うようになる。……

真理を受けた人はみな、個々に自分で神の許へ行き、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる決心をしなければならない。第三天使のメッセージを信奉する人々は、人間を頼みとしてはならない。(ホーム・ミッションナリー 1894年12月1日)

現実の生活には、影や悲しみがある。すべての魂に問題が訪れる。サタンはつねにすべての人の信仰を揺るがせ、勇気と希望をくじこうと働いている。あなたの夫は、自分が死が分かつまで愛し、大切にすると誓った女性の性質がどのようなものであるかを見て、恐ろしいことに気がついた。彼は自分が、自分のことしか考えない人に縛られているのを知る。あなたの想像上の試練、あなたの作り出した身体的障害は、前途をもっとも悲観的にする。(原稿リクス 16巻 311)

わたしはバトラー長老のうちに、有用な人、知性と聖書研究の人を見る。彼の伝道は、もしその働きにおいて彼を助けることのできる女性と一緒になら、はるかにもっと価値のあるものとなる。控えめで知的な女性の助けがあれば、彼がどれほどのことができるか、考えてみなさい。彼はひとりで生活し、ひとりで旅行するままにしておいてはならない。彼が良い妻を見つけるのが早ければ早いほど、彼のための働きには益となる。妻は男である同伴者が自分でできないことを彼のためにすることができる。たとえば、彼の衣服に気を配り、それにほころがっていないか、彼がいつでも大会衆の前に立つ準備ができているかを調べることができる。(リクヤメント・ヤズ 118,119)

キリストの任務に集中する

「わたしはあなたがたが、思い煩わないようにしてほしい。未婚の男子は主のことに心をくぼって、どうかして主を喜ばせようとするが、結婚している男子はこの世のことに心をくぼって、どうかして妻を喜ばせようとして、その心が分れるのである。未婚の婦人とおとめとは、主のことに心をくぼって、身も魂もきよくなろうとするが、結婚した婦人はこの世のことに心をくぼって、どうかして夫を喜ばせようとする。わたしがこう言うのは、あなたがたの利益になると思うからであって、あなたがたを束縛するためではない。そうではなく、正しい生活を送って、余念なく主に奉仕させたいからである。」(コリント第一 7:32 ~ 35)

わたしたちはキリストがその昇天の直前に、ご自分の弟子たちにお与えになった任務がわたしたちにも与えられていることを信じてと主張している。わたしたちはそれを果たしているであろうか。(ビュー・アノド・ヘルド 1903年3月3日)

あなたがたは両方とも、より大きな神への献身を励ますべきである。謙遜に見張る唯一の道は、祈りをもって見張ることである。一瞬たりとも、座ってひとりて楽しみ、自分自身の楽しみと便利さを検討することができると思ってはならない。キリストの生涯がわたしたちの模範である。このお方は悲しみの人で病を知っておられた。このお方は傷つけられ、砕かれた。あなたは自分の立場にあまりにも満足している。あなたはたえず見張る必要がある。さもなければ、サタンはその巧妙さであなたを欺き、あなたの思いを墮落させ、矛盾と徹底的な闇の中へと導く。あなたの警戒は、神に依存する謙遜な誠心によって特徴づけられているべきである。それは誇り高い自己に信頼する精神ではなく、自分の個人的な弱さの深い自覚と神の約束への幼子のような信頼をもってなされるべきである。

今、第三天使のメッセージの真理を宣布するという働きは、そのメッセージが当初始まったとき、すなわち人数が少なく、わたしたちが狂信者だと思われていたときより、たやすくやりやすい。メッセージの発祥および初期の進展において責任をになった人々は、戦いと悲嘆と魂の苦悩が何であるかを知っていた。夜も昼も、重荷が彼らにおもくのかかった。彼らは苦しみに押しつぶされているときでさえ、休息や都合は考えなかった。(教会への証 3巻 326)

5月8日

わたしたちの選択を 支配すべき現代の真理

「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信となんの関係があるか。」(コリント第二 6:14,15)

世は、つりあいの取れていない結婚の結果、今日、悲惨と罪で満ちている。多くの場合、夫と妻が、自分たちの気質が決して交じり合うことのできないものであることに気づくのには数ヶ月しかかからない。そして、その結果は、天の愛と調和だけが存在すべき家庭の中に不一致が行き渡ることになる。……

世俗的な姻戚関係を形成することは危険なことである。サタンは、多くの若い男女の結婚に立ちあう時が、彼らの宗教的な経験と有用性の歴史を閉じることをよく知っている。しばらくは、彼らはクリスチャン生涯を送る努力をするかもしれない。しかし、彼らの奮闘はことごとく反対方向へ向かう着実な感化を受ける。かつては自分たちの喜びや希望を語ることを特権として感じたが、まもなく、彼らは運命を共にするために結び連なった人がこれらの事柄に関心を持っていないのを知って、会話の話題にしようとしなくなる。こうしてサタンは、知らぬうちに彼らの周りに懐疑論というくもの巣を巻きつけて、尊い真理を信じる信仰は心から死滅してしまうのである。(エス・インストラクター 1899年8月10日)

神の真理は他のなにものよりも尊いものとされるべきである。そして妻を得るために真理を犠牲にしようとする男は、神の律法に対する彼の評価が非常に低いレベルだということ、また自己満足が「主はこう言われる」にまざって浮上していることを表している。自分自身の衝動を神のみ言葉よりも優先する男について、女は非常に恐れるほうがよい。なぜなら、彼は結婚が意味することについて、正当な評価をしていないからである。自分の妻を、神への不忠実によって得る者は、自分たちの結婚に神の祝福がとどまることを期待することはできない。彼は発覚を恐れて嘘をつき、自分のきよくない情欲を満足させたり、自分の恋にふけったりするために神の律法を犯すが、幸せになれないのである。自分の神に対して忠実でない者は、自分の妻に対して忠実になることはできない。(原稿別ス10巻191)

わたしたちはだれの交わりを 大事にしているか

「ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだらうか。」(アモス 3:3)

わたしたちは終わりの時代に生きており、結婚の主題に関する熱狂ぶりがキリストの来臨の近いしるしの一つとなっている。これらの問題において神は勧告を求められていない。神に捧げられていない心の衝動を実行に移すために、宗教、義務、原則が犠牲にされている。当事者の結合をめぐって、大々的な見せびらかしや大喜びがあるべきではない。幸せな結果に終わる結婚、神の承認を得て、当事者たちがより神に栄光を帰す立場におく結婚は、百に一つもない。みじめな結婚の邪悪な結果は、数知れない。それらは衝動から取り結ばれたのである。問題を公平に再考することはほとんど考えられず、経験者の助言は、時代遅れだと見なされている。

衝動と聖化されていない情欲が、純粋な愛の代わりに存在している。多くの人々が単に恋愛感情を喜ばせるために結婚関係に入ることによって、自分自身の魂を危険に陥れ、神ののろいを自分たちにもたらしている。……真理を信じると公言する者が、……不信者と結婚することによって大変な間違いを犯してきた。彼らは不信者の相手が真理を信奉するよにとの希望を抱いてきた。しかし、自分の目的が果たされると、彼はますます以前よりも真理から遠ざかる。そして信じている者を信仰から引き離すための敵の巧妙な働きと絶え間ない努力を始めるのである。……

ときどき次のような嘆願がなされる。不信者は宗教に好意的であるし、連れ合いとして望ましい点をすべて持っている、ただ一点だけ—彼がクリスチャンではないということ—を除いては。信徒たちのよりよい判断力が、不信者と生涯にわたって結合することの不適正さを提言しても、十のうち九割は、傾向が勝利する。祭壇で誓いがなされる瞬間から霊的な衰退が始まる。宗教的な熱意が弱まり、砦が次々と陥落し、ついには両者ともサタン黒い旗印の下に、相共に立つようになる。(教会への証 4 巻 503～505)

何百もの人々が、改心していない人と結婚した結果、キリストと天国を犠牲にしてきた。キリストの愛と交わりが彼らにとってあまりにも価値が低く、みじめな死すべき人間との交わりの方を選ぶということがあるであろうか。(同上 507)

5月10日

不信者がさ迷い出させる

「また彼らと婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない。それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」(申命記 7:3,4)

不信者に愛情を捧げることの危険性が認識されていない。若い人の思いの中では、結婚がロマンスでまわられていて、想像力がおおったこの特徴を脱がせ、またその思いに結婚の誓いにかかわる重い責任の自覚を印象づけるのは難しい。この誓いは、死の手のほか何ものも断ち切ることのできない二人の個人の運命を結びつける。……

結婚生活の幸福と繁栄は、当事者の一致にかかっている。肉の思いが、いかにしてキリストの思いに同化している思いに調和することができるであろうか。一人は肉に蒔き、自分自身の心の衝動に従って考え、行動しているのに対し、もう一人は霊に蒔き、利己心を抑え、傾向に勝利し、自分が僕だと公言している主人への従順のうちに生きようと努めている。このように、嗜好にも、傾向にも、目的にも永続的な違いがある。信徒が、原則にしっかりと固着することによって、悔い改めない者を勝ち取るのであれば、その人は、往々にしてそれがつねであるように、落胆して、天とは何の関係もない人とのみじめな交わりのために、自分の宗教的な原則を売り渡してしまう。

神は、昔のご自分の民に、他の民との雑婚を厳しく禁じられた。いま、この禁止はヘブル人が偶像礼拝者と結婚し、異教の家族とつながりを形成することを防ぐためにもうけられたのだという嘆願がなされる。しかし、異教徒たちは、今日の悔い改めない人々、すなわち真理の光を持っていながら、なお頑固にそれを受け拒む人々よりも、望ましい状態にあった。今日の罪人たちは、福音の光がその周りをはっきりと照らしている分だけ、異教徒よりも罪深い。彼は良心を犯しており、故意に神に対する敵となっている。(教会への証 4 巻 507,508)

親の知恵を尊重する

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。」(箴言 1:8)

イサクは、世界の祝福となる約束の相続人となり、神から大きな栄誉を受けた。しかし、彼が四十才のとき、経験豊かで神を恐れるしもべに命じて、彼の妻を選ばせるといふ父の判断に従った。(人類のあけぼの上巻 186)

まだ十代を出ない若者は、自分と同じように相手が一生の伴侶として適当かどうかの判断に欠けている。(アドベンチスト・ホーム 77)

未成熟な結婚は、今日存在する莫大な量の悪を生み出している。人生のあまりに早い時期に入った結婚生活によって、身体的な健康も精神的な活力も促進されない。この主題について、あまりにもわずかな理性しか働かされていない。多くの若者は衝動から行動する。この一歩、すなわち一生の祝福もしくはのろいとなるべき善か悪へ深刻な影響を与える一歩が、あまりにもしばしば性急に、気持ちの衝動の下に踏み出される。多くの人々はこの問題において理性や教えに耳を傾けようとしなない。彼らはこの問題をクリスチャンの見地から考えることに気乗りがしない。

学校の生徒によって婚姻関係を形成するのは、正しいことでも適切なことでもない。若い男女は、人生の責任を負うのにあらゆる方法において適性がなく、自分たちの愛情を守らない。そして多くの自分自身の世話をするのにあまりにも若すぎる者、自分自身の思いを知るのに若すぎる者、すなわち家庭を幸せにし、自分自身を扶養することができるかどうかを一度も試されたことのない多くの者が、結婚生活の責任を引き受ける。

多くの母親が、それまで親を敬い、従順であった息子や娘が、この重要な関係に関して助言を受け入れないために、墓に下ってきた。青年は親や友人の勧告に関係なく、神の承認に無頓着にこの一歩を踏み出す。このお方の「あなたの父と母を敬え」というご命令が無視されるため(出エジプト記 20:12)、このお方の約束は成就することができない。このお方の祝福は向こう見ずなわがままの道をとる人々とどまることはできない。(ユース・インストラクター 1899年8月10日)

5月12日

わたしのために 神に選んでいただく

「家と富とは先祖からうけつぐもの、賢い妻は主から賜わるものである。」(箴言 19:14)

キリストのうちにあるときにはじめて結婚の縁組は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ深い真の無我の愛がありえるのである。

愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、清い愛情は感情ではなく、一つの原則である。真の愛に基づいて行動する者は不合理でも盲目でもない。聖霊によって教えられ神を第一に愛し、隣人をおのれのごとくに愛するのである。

結婚しようと考えている人は一つ一つの感情をよく考え、生涯の運命を共にしようと思う相手に表われてくる品性のあらゆる発達とあらゆる情操を一つ一つよく見守るべきである。そして結婚の縁組に至るまで、しとやか、単純、真実、それに、神を喜ばせ、あがめる熱心な気持をもって一步一步進むべきである。結婚はこの世におけるその人の将来にも、また、きたるべき国における生命にも影響を及ぼす。真実のクリスチャンは神が承認できないような計画を立てることをしない。

神をおそれる、敬けんな両親に恵まれているならばその助言を求めなさい。自己の希望と計画を発表し、両親が生涯のうちに経験し、学んだ教訓を聞きなさい。そうすれば多くの心痛を防止することができよう。しかし、だれよりもまず、キリストを相談相手とし……なさい。

こうした指導のもとに若い婦人は、純潔で男らしい性質をもち、勤勉で大望に燃え、正直で、神を愛し、おそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。また青年は妻の分としての人生の重荷を負うに適した人、その感化が自分を向上させ、精練し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 330,331)

もし男や女が、結婚を考える前に一日に二回祈る習慣があれば、彼らはそのような一歩が予定されているときには、一日に四回祈るべきである。結婚はあなたの一生を、現世においても来世においても感化を与え、影響するものである。(レビュー・アンド・ヘアルド 1888年9月25日)

キリストのような愛の泉

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。」(詩篇 127:1)

もしわたしたちが神のみ言葉を行う者であれば、わたしたちは神の御声に注意を払い、自分たちの十字架をになってイエスの後に従い、時々刻々自己を屈服させる。神の律法が心のうちに記されなければならない。さもなければ、わたしたちは決してその聖なる規則を実行することはない。わたしたちは神の御霊を持たなければならない。さもなければ、家庭の中で決して調和を持つことはできない。妻がもしキリストの御霊を持っているならば、自分の言葉に注意する。彼女は自分の精神を支配し、従順なものとなるが、自分が奴隷のように感じることはなく、自分の夫の連れ合いであることを感じる。もし夫が神の僕であれば、彼は自分の妻に対して威張ることなく、専横的になったり、厳しくなったりしない。わたしたちは家庭の愛情を大切にするのに、注意を払すぎることはない。なぜなら、主の御霊が宿るなら、家庭は天の型だからである。

もし主のみ旨が実行されるなら、夫と妻は互いに敬い、愛する。そして家族の輪の平和と一致を傷つける傾向のあるものは何でも抑制される。親切と愛、優しさと寛容の精神が大切にされる。わたしたちが他の人々に与える愛は、自分たちに反射して戻ってくる。わたしたちは蒔いたものをまた刈り取るのである。もし栄光の望みであられるキリストが内に形づくられるなら、夫と妻は互いに自分たちの不適応さについて話すことはない。もしキリストが妻の心に宿っているならば、夫の心にキリストが宿っているとき、彼と同意する。もし一方が過ちを犯すと、もう一方がキリストのような寛容を働かせ、互いに冷たく離れていくようなことはない。

もし神のみ言葉に従うなら、家庭は最高の種類の伝道の働きの中心地となるが、家庭生活において不一致の状態にあり、主の言葉を実践しない人々は、キリストの恵みによって変えられない限り、決して天の住まいに入るのにふさわしくなることはない。もし主が天に入ることを彼らに許されても、幸せではないであろう。なぜなら、彼らはそこで自分たちを喜ばせないようなものを見つけるからである。地上で決して愛さなかつただれかが天にいて、彼らはその人たちを祝福の場所から追い出したいと願うことであろう。(原稿別ス13巻77,78)

5月14日

互いに高めあう

「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる。」(箴言 18:22)

あなたの結婚生活において、互いに高めあうよう努めなさい。ありふれた安っぽい話や行動に身を落としてはならない。あなたの日常の会話ともっともプライベートな人生の歩みにおいて、その聖なる信仰の高尚な人を高める原則を示しなさい。つねに互いの感情に気をつけ、優しくありなさい。あなたがたのうちいずれも、初めてであっても、ふざけて、からかうように、冗談交じりに互いをとがめるのを許してはならない。これらのことは危険である。それらは傷つける。傷は隠せたとしても、現にその傷は存在しており、平安は犠牲にされ、幸福は危険にさらされる。……

いつも親切に話しなさい。あなたの声に、他の人がいらだちだと受け取るような調子を入れてはならない。あなたの声の調子でさえも調節しなさい。ただ愛と親切と温和さだけがあなたの表情とあなたの声に表現されるようにしなさい。自ら進んで日光を降り注ぎ、決して雲を残してはならない。……

たとえ、あなたの方針があなたには正しいとしか思えなくとも、頑固になってはならない。あなたは人に譲り、寛容になり、親切で、優しい心を持ち、あわれみ深く、礼儀正しくあり、いつも生活上の小さな礼儀や、優しい行動、優しく快活な励ましの言葉を生き生きと保っていなければならない。(天国で 204)

もし男が、また女も、愛を生き生きと保ち、自分の好む連れ合いを得るために必要だと感じた敬意と注意と感謝の優しい言葉や生活上の小さな礼儀を培い続けるならば、どれほど多くの問題となんとという苦悩と不幸の潮を避けることができることであろう。もし夫と妻がただ愛を育むこれらの注意を培い続けさえすれば、彼らは互いの交わりのうちに幸福になり、彼らの家族には聖化する感化力が及ぶようになる。彼らは自分たちのうちに幸福の小さな世界を持ち、この世界の外に出て、新しい魅力や新しい愛の対象を求めようとの願いを持つことはない。(同上 206)

自分自身の関心をイエス・キリストと結びつけ、このお方のみ腕とその保証にたよるとき、夫と妻は神の御使たちが称賛するこの一致のうちに幸福を分かち合うことができる。結婚は彼らの有用性を減じることなく、かえって強化するのである。(信仰によってわたしは生きる 259)

わたしたちの家庭をうるわしくする

「すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。あなたは自分の手の勤労の実を食べ、幸福で、かつ安らかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの実を結ぶぶどうの木のように……ある。」(詩篇 128:1～3)

多くの人々は、自分たちの家庭生活において、あまりにも外見を保とうと一生懸命になるがゆえに不幸である。彼らは自分たちの仲間一実(ひと)は彼らのためにも彼らの繁栄のためにも気にかけていない人々の賞賛を得るために、多くの資産を費やし、際限なく労する。家庭の備品のために、品物が次々と必要不可欠だとみなされ、ついには多くの高価なもの、すなわち目には一時の満足を与えるが、家族には少しも心地よさを増し加えないものが増え加えられることになる。同時に、すべてこれらの物は、強さや忍耐に重い負担をかけ、主の奉仕に費やされるべき貴重な時間を消耗してしまう。

神の尊い恵みは、本当の重要性はない事柄の二の次とされておき、楽しみのために物を集めながら、その一方で幸福のための余地をなくしている。彼らは自分たちの所有物が、それらによって得るであろうと期待した満足を与えないことを見出すようになる。……

衣服や家の飾りが、幸福な人々を作ることはない。かえって、柔和と親切と愛を持つことにより、もっともいやしい住まいがうるわしくされ、もっとも貧しい家族が富んだものにされる。気持ちのよい声、優しいふるまい、またすべての行動のうちに表現される真心からの愛情は、あばら屋でさえもっとも幸福な家庭とし、そこを創造主は是認をもって眺め、天使たちは引きつけられるのである。(健康改革者 1876年11月1日)

愛情が水晶のようにきれいで、その純潔さにおいてうるわしいものであっても、それでもテストされ、試されていないがために浅いことがある。キリストを万事につけ、最初と最後と最高としなさい。絶えずこのお方を眺めなさい。そうすればこのお方を愛するあなたの愛は、試練のテストに服するとき、日ごとにますます深くますます強くなる。そしてこのお方を愛するあなたの愛が増すにつれ、互いに対するあなたがたの愛は、ますます深くますます強く成長するのである。(信仰によってわたしは生きる 252)

5月16日

キリストの態度を覚える

「雨の降る日に雨漏りの絶えないのと、争い好きな女とは同じだ。」(箴言 27:15)

ある〔妻たち〕は、……自分たちの夫にとって何の助けにもなっていないが、それでも第三天使のメッセージを公言する。彼らは、神のみ旨や、いかに自分たちの忠実な祈りや注意深い歩みによって自分たちの夫の手を支えることができるかよりも、自分自身の願いや喜びを研究する。わたしは彼らのうちのある者は、非常に頑固で利己的な道を選ぶために、サタンが彼らを自分の道具となし、彼らを通してその夫の感化力や有用性を台無しにしているのを見た。彼らは自分たちが少しでも苦境におかれると、平気で不平を言い、つぶやく。彼らは昔のクリスチャンたちが真理のためにどれほど苦しんだかを忘れていて、そして彼らは自分たちの願いややり方を通し、自分自身の意志どおりにしなければ気がすまない。彼らは自分たちの主人であられるイエスのお苦しみを忘れていて。彼らは病を知っておられた悲しみの人—まくらすところもなかったお方を忘れていて。彼らはいばらの冠が刺し通した聖なる額を覚えていようともしない。彼らはご自分の十字架をカルバリーまで背負い、その重さで倒れてしまわれたお方を忘れていて。ただ木の十字架の重さだけではなく、世の罪の重荷がこのお方にのしかかった。彼らは、このお方の優しい手足に打ちこまれた残酷なくぎや、このお方が臨終の息であげられた「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という、苦悩の叫びを忘れていて(マルコ 15:34)。彼らのためにこれらすべての苦しみを耐えられたにもかかわらず、彼らはキリストのために苦しみことを非常にいやがるのである。

これらの人々は、自らを欺いているのを、わたしは見た。彼らはこのことにおいて、何の役割も分もない。彼らは真理をつかむが、真理は彼らをつかんでいない。真理、すなわち厳粛で重要な真理が、彼らをつかむとき、自己は死ぬ。そのときの言葉は「わたしはあそこに行こう、ここにしよう」とはならず、真剣な問いは、「神はわたしに何をおさせになりたいであろうか。どこでわたしは最高にこのお方に栄光を帰すことができるであろうか。そしてどこで、わたしたちの一致した働きは、最善をなすことができるであろうか」となる。彼らの意志は神のみ旨のうちのみ込まれるべきである。(教会への証 1巻 137,138)

この地上における神の民の家庭は、できるかぎり、神が御座を持っておられる天の家庭の象徴となるべきである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1903年10月28日)

自然の単純さにおける喜び

「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ」(箴言 24:3)

イスラエルのための神のご計画において、すべての家族は十分な耕作のための用地がある土地に家庭を持った。こうして有益で勤勉な自活できる手段と動機の両方が与えられる。そして、人の考案がこのご計画を改善したことはかつて一度もない。

地には、勇気を持ち、辛抱強くその宝を集めようとする人々のために、その深みに隠された祝福がある。一片の土地と快適な家庭を持つ父親と母親は、王と女王である。

高価な住まい、精巧な家具、見せびらかし、贅沢、安逸は、幸福で有益な生活に重要不可欠な条件を与えるものではない。イエスはこの地上にかつて人の間でなされた中で最も偉大な働きを成し遂げるために来られた。このお方は、わたしたちに人生の最高の結果を得るためには、どのように生きるべきかを示すために、神の大使として来られた。無限なる御父がご自分の御子のために選ばれた状況はどのようなものであっただろうか。ガリラヤの丘の引っ込んだ住まい、まじめに自尊心をもってなす労働、単純な生活、困難や苦勞との日々の闘い、自己犠牲、節約、そして忍耐強く喜ばしい奉仕、このお方の母親の傍らで、聖書の巻物を開いての研究の時間、緑の谷の静かな夜明けとたそがれ、自然の聖なる奉仕、創造とみ節理の研究、そして魂の神との交わり—これらがイエスの地上生活の状況であり、機会であった。(信仰によってわたしは生きる 260)

もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じのいいものにすることができる。……

どんなに貧しくても、いなかに住んでいれば、ほとんどだれもが家の周囲にいくらかの芝をもったり、数本の木や花の咲く灌木や、かおりの高い草花を植えることができる。それがどんな人工的な装飾よりもはるかに家族を幸福にするであろう。それは家庭生活に温和な、高尚な感化をもたらし、自然を愛する愛を強め、家族の者を互に親しませ、神に近づかせる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 340,341)

5月18日

わたしの妻に感謝する

「あなたの泉に祝福を受けさせ、あなたの若い時の妻を楽しめ。」(箴言 5:18)

わたしたちの世には、自分たちに与えられるべき愛と同情に飢えている人々が多くいる。多くの男は、自分の妻を愛しているが、あまりにも利己的でそれを表さない。彼らは誤った尊厳と誇りを持ち、自分たちの愛を言葉や行いによって示そうとしない。妻の心がどれほど優しい感謝や愛情の言葉に飢えているかをまったく知らない男が多い。彼らは自分たちの見えないところに愛する者たちを葬り、彼らから伴侶を奪った神のみ摂理をつぶやくが、もし彼らの目がそうした伴侶の内なる生活を見ることができれば、彼らは自分自身の取った行動が、その時期尚早な死の原因であったことを知る。キリストの宗教はわたしたちを親切で、礼儀正しく、またあまりにも自分たちの意見に固執することがないよう導く。(教会への証 3 卷 527,528)

日々、いろいろなわずらわしいことで、老若を問わず悩まされる。忍耐と愛の満ちた明るい生活を願うものは祈らなければならない。神から絶えず助けを得なければ、自分に勝つことはできない。

家庭は喜びと礼儀と愛が宿るところであるべきである。こうした美德があるときに幸福と平安が来る。悩みが生ずることがあるが、それは人類が当然受けるものである。たとえ、どんなに暗い日があっても忍耐と感謝と愛によって心に光を持っているべきで、そういう家庭には神の使が宿るのである。

夫も妻も相互の幸福を計り、生活を気持よく、明るくするような細かい礼儀や、ちょっとした親切な行為を決して怠ってはならない。完全な信頼が夫婦の間にあるべきである。自分たちの責任をともに考え、ともに子供の最高の利益を計るべきで、決して子供の前でお互いの計画を非難し、お互いの判断を疑ってはならない。妻は子供に対する夫の働きを困難にしないように注意し、夫は妻の手をささえ、賢明な助言を与え、愛のこもった励ましを与えなさい。(ミストリー・オブ・ヒーリング 362)

家庭で喜んで生活する

「日の下で神から賜わったあなたの空なる命の日の間、あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい。これはあなたが世にあってうける分、あなたが日の下で勞する労苦によって得るものだからである。」(伝道の書 9:9)

夫は、型であられるお方を研究し、エペソ書の中で提示されている象徴、キリストが教会を支えている関係が、何を意味しているかを知ろうと努めるべきである。夫は、自分の家庭の中で救い主のようであるべきである。彼はその気高い、神から与えられた男らしさのうちにあり、常に自分の妻と子供たちを高めようと努めているであろうか。彼は純潔な芳しい雰囲気をも自分の周りにただよわせているであろうか。彼は勤勉にイエスの愛を培い、自分の権威を行使するときに、イエスの愛を自分の家庭の永続的な原則とするであろうか。すべての夫かつ父親は、偏った方法で単に妻が自分の夫に服従することばかりを考えて、キリストのみ言葉を理解するために研究するのではなく、家族の輪の中で自分自身の立場に関してカルバリーの十字架の光の中で研究すべきである。……

イエスは、ご自分が聖霊の感化によってわたしたちをすべての罪と汚れから清め守ることができるように、十字架上で死にご自分を渡された。(原稿リ-ス 21 卷 216)

神のみ言葉はわたしたちの標準であるが、このお方の民だと公言する人々は、なんとそれからかけ離れていることであろう!わたしたちの宗教的信仰は、単に理論的ではなく、実際的でなければならない。純粹で汚れていない宗教は、神の被造物の最も小さいものの権利を踏みじることを許さない。このお方の体の肢体であり、自分自身の家族の一員であれば、なおさらである。神は愛である。そしてこのお方のうちに宿る人はだれでも愛のうちに宿る。だれかによって雲のように運ばれてくる世的な利己心の感化力は、他の人々が呼吸する大気を凍らせ、魂の病気を生じさせ、しばしば凍え死にさせる。

純潔で無我の愛と私心のない寛容を培うのはあなたにとって大きな十字架であろう。あなたの意見と考えを譲り、あなたの判断を捨てて、他の人々の勧告に従うのは、あなたにとって大きな十字架であろう。……あなたはイエスに自分のそば近くに来ていただく必要がある。あなたの家庭に、あなたの心にこのお方にいていただく必要がある。……キリストの義は、純粹で無我の動機から生じる正しい行動と良いわざによって構成されている。(教会への証 3 卷 527,528)

5月20日

生活の一致

「創造者は初めから人を男と女とに造られ、そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マタイ 19:4 ~ 6)

キリストが治めておられるところのみ、深くて真実な無我の愛が存在できる。そのとき、魂は魂と結びあわせられ、二つの命は調和のうちに混じり合う。(信仰によってわたしは生きる 252)

結婚の儀式が執り行われたときに完全に一致している夫婦はほとんどいない。結婚の誓いを行う二人に語られた決まり文句が、彼らをつ一つにするわけではない。彼らの将来の生活が、結婚生活における二人の混じり合いとならなければならない。もし各々、お互いが真の心からの愛情を与えるならば、それは実に幸福な一致となることができる。

しかし、想像力が結婚に着せていたロマンスは、時がそこからはぎとる。そのとき、サタンのほのめかしを通して、思いに次の思想が入るすきを見つける、「わたしたちは思ったほど互いに愛してはいない」。その思想を思いから追い出しなさい。それをいつまでも考えてはならない。各々、自分を忘れて、サタンがあなたに考えさせたいと思うような考えをいただくのを拒否しなさい。あなたがたの愛情が互いに疎遠になるように、ほとんど理由にならないような一つ一つの小さいことに、あなたが疑い深く、嫉妬させるのが、サタンの仕事である。……ロマンスが過ぎ去ったら、各々、感情的なやり方ではなく、いかにして自分が結婚生活を神の喜ばれるようなものにできるかを考えなさい。

生涯は神からの尊い賜物であり、利己的な後悔やさらにはあからさまな無関心や嫌悪感によって無駄にされてはならない。夫と妻は何でも一緒に話しなさい。互いへの初めのころの関心を新たに、互いに自分の過ちを認めあいなさい。しかし、この働きをするときに、夫が妻の過ちを告白することを引き受けたり、妻が自分の夫の過ちを告白したりすることのないよう、非常に気をつけなさい。あなたは、互いのために自分が可能な限りすべてのものになることを決心しなさい。そうすれば、結婚の契りは最も望ましい絆となる。あなたの家庭は、天の象徴となることができる。(天国で 203)

積極的に離婚を避ける

「あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。イスラエルの神、主は言われる、『わたしは離縁する者を憎み』」(マラキ 2:15,16)

多くの結婚は、ただみじめさを生みだすばかりであるが、なお若者たちの思いは、この流れへと走る。なぜなら、彼らが自らを制することも家族を養うこともできないときに、幸せになるためには結婚しなければならないとサタンが信じ込ませることによって、そこへ導くからである。不愉快な不一致や争いを避けるために、自らをお互い相手の気質に合わせるつもりのない人々は、結婚に踏み込んではいない。(教会への証 5 巻 122,123)

すべての夫婦にとって、慎重に相手の感情を傷つけることを避けることは義務である。彼らはすべてのいらだちや感情的な顔つきを制すべきである。彼らは、大事におけるのと同様に小事においても優しい思いやりを示すことによって、また親切な行為や小さな礼儀を認めることによって、互いの幸せを研究すべきである。これらの小さい事柄はなおざりにされるべきではない。なぜなら、それらはちょうど食物が体力を維持するのと同様に、男女の幸福にとって重要だからである。父親は、妻であり母親である者に、自分の大きな愛情に頼るよう励ますべきである。彼からの親切で快活な励ましの言葉は、生涯の幸福を彼に預けた者にとって、どんな薬よりも益がある。そして妻であり母親である者の心にもたらすそのような同情の言葉の快活な光線は、自分自身の快活な光線を父親の心にも反射するのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1899 年 7 月 18 日)

神の御霊が統治なさる所では、結婚関係における不相応について語られることはない。

困難や困惑や失望が生じるであろうが、夫も妻も自分たちが一緒になったことが過ちあるいは失望であったという考えを抱いてはならない。互いにとって、可能な限りすべてのものになろうと決心しなさい。初めのころの関心を持ち続けなさい。あらゆる方法によって、人生の闘いを戦うときに互いに励まし合いなさい。互いの幸福を向上させるために研究しなさい。相互の愛、相互の寛容があるようにしなさい。そのとき、結婚は、愛の終焉となる代わりに、まさに愛の出発点となる。(信仰によってわたしは生きる 253)

5月22日

今日の一般的な姦淫を遠ざける

「すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。」(ルカ 16:18)

わたしたちの救い主はその警告の中で、世の終わりがどのようなになるかをわたしたちに教えて下さった。このお方は次のように仰せになる。「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう」(マタイ 24:37～39)。キリストは非常にはっきりと将来の社会の状態がどうなるかをご覧になった。このお方は自己放縦が男女を支配するのをご覧になった。今日結婚関係はどうなっているであろうか。それはゆがめられ、汚され、ノアの時代のようになっているのではないだろうか。離婚に次ぐ離婚が毎日の新聞に掲載されている。これこそ、キリストが洪水前に彼らは「めとり、とつぎなどしていた」と言われたときに示しておられる結婚である。(原稿31-ス7巻 56)

神は男に一人の妻をお与えになった。このお方が男にとって一人より多くの妻を持つのが最善だと思われたなら、容易に二人の妻を与えることがおできになった。しかし、このお方はそのようなことは認可ささらなかった。(ユース・インストラクター 1899年 8月 10日)

わたしが自分の聖書を読むとおり、もしあなたの妻があなたから離婚したとしても、あなたが自由に再婚しても良いということにはならない。(性的態度、姦淫、離婚における証 208)

若い人の心では、結婚というものがロマンスでおおわれているので、想像によって結婚をおおっているこのロマンスという特色をとり去って、結婚の誓約に含まれている重い責任感を心に印象づけることは困難である。この誓約はふたりの運命を死の手しか断つことができないきずなで結び合わせる。

婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずついて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。(7ドベンチスト・ホーム 382)

自分たち自身の向こう側を見る

「男子は婦人にふれないがよい。しかし、不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよい。夫は妻にその分を果し、妻も同様に夫にその分を果すべきである。妻は自分のからだを自由にするにはできない。それができるのは夫である。夫も同様に自分のからだを自由にするにはできない。それができるのは妻である。」(コリント第一 7:1～4)

夫と妻は、自分たちの間で愛のしるしを取り交わす互いの交わりのプライバシーを慎むことを、自分たちの特権であり、義務であると感じるべきである。しばらくのあいだ、お互いの愛を表すことはしかるべき場所で正当であるが、既婚者にも未婚者にも害をもたらすかもしれない。全く違った種類の思いや品性、また違った種類の教育や訓練の人々がいて、自分の愛情を自由に表すように自ら教育してきた人々とまったく同様に、献身的にまた健全にお互いを愛する人もある。そして、これらの二人の対照性によって、より慎み深い人々が誤解され、不利になる危険性がある。妻は敬意と服従をもって自分の夫により頼むべきである一方、健全で健康的な方法で、自分が生涯のつれ合いとして選んだ男性への強い愛情と信頼を表すことができる。……

結婚生活においてお互いを幸せにするのがクリスチャンの高尚な特権であり、厳粛な義務であるが、全く夢中になり、愛情の富をすべて互いに対して注ぎ出し、そのような生活にすっかり満足してしまうのは、明らかに危険である。これらはみな、利己心のおいがる。

自分たちの愛と同情を自分たちの中に閉じ込めておく代わりに、彼らは他の人々の益のために貢献するすべての機会をとらえ、神の御目には彼らとまったく同様に尊く、このお方のひとり子の無限の犠牲によって買われた魂への純潔で聖なる愛のうちに、豊かな愛情を分かちべきである。

親切な言葉、同情のまなざし、愛情の表現は、多くの苦闘する孤独な人々にとって、渴いた魂への一杯の冷たい水のようなものである。(天国で 207)

5月24日

不信者の配偶者に対する キリストのような愛

「そのほかの人々に言う。これを言うのは、主ではなく、わたしである。ある兄弟に不信者の妻があり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。また、ある婦人の夫が不信者であり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。」(コリント第一 7:12,13)

ある母親が自分の夫は不信者だと言う。彼女には子供たちがいるが、彼らは父親から母親を軽蔑するように教えられている。彼女は自分の子供たちのために深く重荷を感じている。……

あなたがあっている試練は、非常に苦しい種類のものであろう。あなたはしばしば自分に示される軽蔑のために心に痛みを覚えることであらう。しかし、わたしはあなたの子供たちの世話をすることがあなたの義務にちがいないことを確信している。これはあなたが定められた働きをする伝道地である。それは、岩だらけで労するのに失望させる土地であらうが、ひるまず、良心的に、あらゆる失望させる状況にもかかわらず、自分の義務を果たすためのすべての努力において、あなたにはつれ合いなるお方がおられる。イエスがあなたの助け手であられる。イエスは失われ滅びつつあるある魂を救うためにわたしたちの世に来られた。そしてあなたはこの働きにおいて自分が神と共に働く共労者であるとみなすべきである。……あなたの夫をいつでも親切に扱いなさい。そして子供たちをあなたの心に愛のひもで結びなさい。これがあなたの働きである。これこそ、あなたが負うべき重荷である。あなたの家庭の試練をイエスの他だれにも話してはならない。それらをイエスの耳に入れなさい。(原稿リ-ス3 巻 369,370)

自らを聖書の方法と手段のうちに教育し、自分自身の家庭で成功した働き人になれるようにしなさい。……不愉快だからと言って、自分の義務の地位を捨ててはならない。今日、沈黙のうちに苦しんでいる生きた殉教者が多くいる。彼らは舌をもって虐待されているときに神に信頼する人、からかわれている人、粗野で無情な非難によって痛みを覚え、傷ついている人、あたかも生きて苦しむのがその人の分であるかのような、ただ自分たちの力の源であられるイエスからのみ慰めを受けている人、このような魂は伝道者である。彼らはキリストの貴い人々であり、彼らの名は小羊の命の書に記されている。

これを覚えていなさい。イエスはそれらすべて—すべての悲しみ、すべての悲嘆—をご存じである。このお方はあなたが沈むがままにはなさない。なぜなら、このお方のみ腕はあなたの下にあるからである。(同上 372)

結婚のうちにある伝道地

「なぜなら、妻よ、あなたが夫を救いうるかどうか、どうしてわかるか。また、夫よ、あなたも妻を救いうるかどうか、どうしてわかるか。」(コリント第一 7:16)

ただ一度の人生がわたしたちに与えられている。そして心遣い、骨折り、自制によって、それは耐えられるもの、快いもの、そして幸福なものにさえる。

自分たちの生涯の利害を結合させたすべての夫婦は、互いの生涯をできる限り幸福なものにするよう努めるべきである。わたしたちが重んじるものを維持し、できることなら、ますます価値あるものにするよう努めるべきである。結婚の契約によって、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのであって、彼らは自分たちの短気やいら立ちの言葉を制するよう、自分たちの結婚以前よりさらに注意深く、最善の努力をなすべきである。なぜなら、今や彼らの運命は、生涯の間、夫と妻として結合しており、結婚前にあれほど熱心に求め、重んじていた愛を維持し、生き生きと保つために払う骨折りと努力の量にちょうど比例して、それぞれの価値が量られるからである。(この日を神と共に 335)

失望させる言葉があなたに向かって語られたとき、心地よい返答ができない限り、答えてはならない。あなたが不親切な言葉で試され、誘惑されるときに、復讐してはならない。自ら「わたしはわたしの救い主を失望させることはしない」と言いなさい。すべてのクリスチャンである男は紳士であり、すべてのクリスチャンである女は淑女である。親切の律法がいつもクリスチャン女性の唇にある。彼女は性急な言葉を口にしない。あなたがいらだちを感じるときに親切な言葉を語ることは、あなたの心の中に日光をもたらし、あなたの道をよりなめらかにする。学校の女生徒が質問に答えて、「柔和な人というのは、荒々しい質問に対して柔らかい答えを返す人です」と言った。キリストは、「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう」(マタイ 5:5)。彼らは天の王国にふさわしいものとされる。なぜなら、彼らは教えられることを喜ぶからである。

あなたは自分の夫がまだ真理に改心していないと言う。彼にあなたの生活においてキリストをその言葉通りに信じることの優位性を示しなさい。忍耐、寛容、親切によって、あなたは自分の夫を救い主に勝ち取ることができる。

神の恵みの力のうちに、あなたは最も貴重な勝利を得ることができる。あなたは自分の人生をロマンスとしてではなく、現実として扱うべきである。(原稿リズ 8巻 442,443)

5月26日

屈服と愛

「妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。」(コロサイ 3:18,19)

家庭にいる真の女性は宝である。そして、彼女は尊重されるべきであり、感謝されるべきである。しばしば次の質問がなされる、「妻は自分自身の意志をもつてはいけないのか」。聖書は、夫が家族の頭であることをはっきりと教えている。「妻たる者よ、夫に仕えなさい」。もし、この命令がここで終わっているならば、わたしたちは妻の立場はうらやむようなものではないと言えるであろう。それは非常に多くの場合、非常に厳しくつらい立場であって、結婚が少なければ少ないほど良いであろう。多くの夫は、「妻たる者よ、……仕えなさい」というところで、言葉を止める。しかし、わたしたちは同じ命令の結論に、「主にある者にふさわしい」とあるのを読む(コロサイ 3:18)。

神は妻が常に自分の前に神の畏れと栄光をおくようにと要求しておられる。全屈服は、ただご自分の命という無限の価をもってご自身の子として彼女を買われた主イエス・キリストにのみ捧げられるべきである。神は彼女に良心をお与えになったのであり、それを犯しては、刑罰を受けずにすまない。彼女の個性は自分の夫の中に吸収されてはならない。なぜなら、彼女はキリストに買われたものだからである。盲目的な献身をもって、彼女が万事につけ自分の夫の言いなりになり、サタンの奴隷からあがなわれた自分の体と精神に害をなすと知りながらも、そうすべきだと思うことは間違いである。妻にとって夫よりも高くいらせられるお方がある。それは彼女の贖い主であられ、彼女の夫への服従は、神がお命じになった通り、「主にある者にふさわしい」ものとして捧げられなければならない。

夫が自分の妻に完全な服従を要求し、女には家庭において何の声も意志もなく、ただ完全な服従を捧げるべきだと宣言するとき、彼らは自分たちの妻を聖書に反する立場に置くのである。……わたしたちは続けて、「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない」とあるのを読む(19節)。なぜ夫が自分の妻につらく当たるべきであろうか。もし夫が、自分の妻が間違いを犯し、欠点だらけであるのを見出していたとしても、つらく当たる精神は悪の治療法とはならない。(原稿別冊13巻74,75)

わたしの夫に順応する

「キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の教主であられるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。」(エペソ 5:23,24)

親愛なる T 姉妹。わたしはあなたの宗教生活に欠陥があることを示された。あなたはあまりにも闘争的な精神を持ちすぎた。あなたが自分で考え行動することはあなたの特権であるが、それをあまりにもやりすぎる。あなたは謙遜よりも独立心を持っている。あなたはなだめるよりも、いらだたせるような道を取ってきた。あなたは真理を擁護して立つために、堅固さを持つ必要があった。しかし、あまりにもしばしば、神が非常な価をもって評価なさる柔和でしとやかな精神を持っていないという点において過ちを犯してきた。あなたの家族の中で、あなたは反対や真理への嫌悪の表れに会ってきた。しかし、あなたこれらの試練に対して、最上の方法で対応してこなかった。あなたはあまりにも口数が多く、あまりにも積極的すぎる。あなたは家族のための、とくに自分の夫のためのあなたの努力に、愛と優しさをあまりにもわずかしか混ぜてこなかった。あなたは、主張を極端にもっていき、物事をやりすぎ、癒すよりも傷つけてしまう危険性がある。あなたが真理の原則を犠牲にすることなく、自分の判断を譲ることができるときは、自分が正しいと思ってもそうする方があなたのために最善である。あなたには、夫に同化吸収させることのできない責任があり、固有性がある。しかしなお、あなたがたを一つにする絆があるのであり、多くのことにおいて、もしあなたがもっと譲る者であれば、そのほうがあなたの夫にとって、あなたの子供たちにとって、そしてあなた自身にとってはるかに良いのである。あなたはあまりにも厳密すぎる。あなたは自分と違っている人々の信頼を得ようと努めない。あなたは有利なことがあるとそれにすばやく気づき、最大限に活用する。もしあなたがもっと美しい愛のまじり合った寛容さを持っているなら、そしてもしあなたがキリストのために、多くのことを利用したり、やりすぎたりせず、それによって不快な感情を生じさせないなら、感化力はより良い、より救うものとなる。(教会への証 2 巻 436, 437)

[R 姉妹]、あなたは自ら自分の願望や願いを否定するようにし、あなたの夫があなたに合わせなければならないと感じるように導くべきではない。……女性になりなさい、きまぐれな子供ではなく。(同上 433)

5月28日

わたしの妻を優しく保護する

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。……それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえって、キリストが教会になされたようにして、おのれを育て養うのが常である。」(エペソ 5:25,28,29)

わが兄弟よ、とげとげしく同情心のないあなたの言葉は、切りつけ傷つける。あなたにとって非難し欠点を見つけるのは非常にたやすいことであるが、それは不幸を生み出すだけである。あなたが他の人々に語る言葉が、もしあなたに語られたなら、あなたはすぐに憤慨することであろう。あなたは親切で優しく同情的であることを弱さとして見ており、優しく、親切に、愛情をもって自分の妻に話すことは、自分の尊厳を低めると考えている。ここであなたは、何が真の男らしさと尊厳を構成しているかについて誤っている。親切な行為をせずにそのままにした気質は、あなたの品性における弱さと欠点の表れである。あなたが弱さだと見ているものを神は真のクリスチャンの礼儀、すなわち、すべてのクリスチャンが働かせるべきものだとみなされる。なぜなら、これこそ、キリストが表された精神だからである。(教会への証 2巻 256)

夫また父親が、イエス・キリストに従う者の保有すべき尊厳のある信心深い男らしさを持っていない家族がある。彼は自分の妻、すなわち自分が神と天使の前で、二人が生きている間、愛し、敬い、尊ぶと約束した妻になすべき親切で優しい礼儀のある行為を表してこなかった。働きのために雇った女の子はとらわれずに、そして彼の髪を整えるためにいささか積極的な注意を払い、愛情をこめて気遣うかもしれない。そのとき、彼は喜び、愚かしいほど喜ぶのである。そして、彼はかつて現したほどの注意と愛を自分の妻に表していない。ここでサタンが働いていることは間違いない。あなたの雇った助け手を尊重し、親切に思いやり深く扱いなさい。しかし、それ以上進んではならない。あなたのふるまいが、あなたの助け手からの親しみへと進展するようなものにならないようにしなさい。もしあなたが親切な言葉や礼儀正しい行為を与えたとしたら、それらを自分の妻に対して与えるのが、いつも安全である。それは彼女にとって大きな祝福となり、彼女の心に幸福をもたらし、それがあなたに再び反射して戻ってくるのである。(厳粛な訴え 155,156)

わたしの夫への敬い

「いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。」(エペソ 5:33)

女が自分の家族の問題を、あるいは自分の夫についての不平を、他の男に語るとしたら、彼女は結婚の誓いを破っているのである。彼女は自分の夫を辱め、結婚関係の神聖さを守るために建てられた防壁を崩しているのである。彼女はサタンがその狡猾な誘惑をもって入るように戸を広く開き、招いている。これはまさにサタンがそうあればと望んでいることである。もし女がクリスチャンの兄弟のところに自分の悩みの話を持ってくるなら、彼はいつでも彼女に、もし自分の問題をだれかに打ち明けなければならないとすれば、自分の信頼する相手に姉妹を選ぶように助言すべきである。そうすれば、それによって神のみ事業が非難を受けるような悪の外見はないであろう。(教会への証 2 巻 306)

妻が自分の同情と関心と愛情を自分の夫以外の他の男に向けることがある。彼は彼女が信頼している家族の一員で、彼女が自分の問題、またおそらくは家族のプライベートな問題を話している人かもしれない。彼女は彼の交わりを欲していることを示している。

この根底にはサタンがいる。そして、彼女が危機感を持ち、自分のいるところで止まらないならば、彼は彼女を破滅へと導く。わが姉妹がたよ、あなたはこのことについて警戒しすぎることはない。もしあなたが優しい愛の言葉と親切な注意を与えるとすれば、それらをあなたが天使たちの前で、二人が生きている間は愛し、尊び、敬うと約束した人に与えなさい。ああ、何と多くの生涯が、すべての家族のプライバシーを封じ、純潔と神聖さを保つために意図された防壁が崩されたことによって苦々しいものとされたことであろう!第三者が妻の信頼の中に取り入れられ、彼女の家族のプライベートな問題が特別な友人の前に明らかにされる。これはサタンが夫と妻の心を疎遠にさせるための策略である。ああ、これが止むように!なんという問題の世界を避けることができることであろう!お互いの欠点を自分自身の心のうちに秘めておきなさい。あなたの問題を神にだけ告げなさい。このお方はあなたに正しい勧告と確かな慰めを与えることがおできになり、それは純潔でその中に何の苦々しさもないのである。(厳肅な訴え 156,157)

5月30日

模範によって感化を与える

「同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救に入れられるようになるであろう。」(ペテロ第一 3:1,2)

あなたは真理に対して熱心である。あなたはそれを愛し、そのために何か投資したいと願っている。それはみな正しいことであるが、あなたが他の人に与える教訓は、模範によって裏付けされていることを確かめなさい。あなたは平和を求めなければならない。あなたは、真理の原則を一つも犠牲にしないで、そうすることができる。あなたは激しく飛び出し、自分のやり方を押し通してきたが、今あなたが自分の感化力をおだやかなものとし、芳しく、和らげる必要がある。どこでも平和がついてまわったお方の無害な生涯を模倣しなさい。

わが姉妹よ、あなたは進んで学び、進んで勧告を受けるものとならない限り、神の民にとって試練となるであろう。あなたは自分がそれをすべて知っていると感じて続けてはならない。あなたが神のみ前に完全になることができる前に、あなたが学ばなければならないことがたくさんある。学ぶべき最もうわしい最高の教訓は、謙遜の教訓である。「わたしに学びなさい」と謙遜なナザレ人は言われる。「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」(マタイ 11:29)。この柔和、寛容、忍耐、そして愛の教訓を、あなたはまだこれから学び実践しなければならない。あなたは祝福となることができる。あなたは助けを必要としている人を助けることができる。しかし、あなたは自分の量りひもを下におかなければならない。なぜなら、それはあなたが用いるべきものではないからである。裁きにおいて間違ふことのないお方、すなわちわたしたちの墮落し腐敗した性質の弱さを理解されるお方が、自ら標準を持っておられる。このお方は聖所の秤で量られる。そしてこのお方の正しい計量を、わたしたちはみな受け入れるのである。

あなたは自分の夫に対するふるまいにおいて過っている。あなたは彼に対してもっと優しさや尊敬を培う必要がある。あなたは厳しすぎる。あなたは事態を極端に運び、自分自身の魂と真理に害を及ぼしている。あなたは真理を嫌悪させるようなものにし、魂がそれを恐れるようにしている。愛があなたの言葉を和らげ、あなたの行動に色合いを与えるようにしなさい。そうすれば、あなたは自分の交わる人々のうちに変化を認めるようになる。そこには争い、嫉妬、不和の代わりに平和、一致、調和があるであろう。愛と優しさを、とくにあなたの家族のうちで働かせなさい。そうすれば、あなたは祝福を受ける。(教会への証 2巻 438,439)

あまりにもしばしば妨げられる 夫の祈り

「夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共に受継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためである。」(ペテロ第一 3:7)

わたしたちの祈りは、自分の心の誇りによって、欠点を告白し、悪い印象を取り除くことを拒むことによって妨げられている。(この日を神と共に 19)

L氏は、自分の妻への愛、すなわち言葉や行いに表現を見出す愛を培う必要がある。彼は優しい愛情を培うべきである。彼の妻は繊細で依存心の強い性質をもっており、大事にされる必要がある。すべての優しい言葉、すべての感謝や愛情深い励ましの言葉は彼女に覚えられ、それが自分の夫への祝福となって反射される。彼の同情心のない性質は、キリストとの密接なつながりのうちに入れられる必要がある。それによってその堅苦しさや冷たい自制が神聖な愛によって征服され、やわらげられるためである。自分の妻に優しさや同情を言葉や行為に表現することは、弱さでも、男らしさや尊厳を犠牲にすることでもない。(教会への証 3 巻 530,531)

わたしたちは力の限りを尽くして、すべてのつまずきの石を取り除くべきである。……あなたのできるかぎり、すべて譲歩しなさい。苦しんでいる思いに、もう一歩進んだ謙遜や、優しい心の関心が取り除くことのできる誤解を残したままにしてはならない。サタンは確実に誤解させるための誘惑をもってその思いのところへやって来て、モグラ塚から山を作り出すのである。傷ついた感情にたやすくつまずく思いは、あらゆる種類の誤った考えを思い描く。(この日を神と共に 19)

あなたは他の人々の生来の独立心を尊重すべきことを覚えていなければならぬ。もしあなたの妻が自分の働きを自分に都合のよいように行うとすれば、あなたには彼女の事柄に干渉したり、いらだったり、彼女のやりくりに対するあなたの多くの助言や小言で彼女に重荷を負わせたりする権利はない。……

あなたの妻を自分の意志の奴隷にするために努力してはならない。かえって、親切と、彼女の快適さと幸福を促進しようとする無私の願いによって、彼女をあなた自身との密接な同情のうちにひきよせなさい。彼女に自分の才能を働かせる機会を与えなさい。(教会への証 4 巻 139,140)

6月1日

家族のための神のご計画

「神は寄るべなき者に住むべき家を与え」(詩篇 68:6)

神ご自身が家族関係を造られた。子供を治めるときの唯一の安全な指針は神のみことばである。人間の学問は、神が知っておられないことを発見したことはない。また、子供を取り扱うのに、私たちの主がお与えになった計画にまざるものを考案したことはない。(アドソフスト・ホーム 342) あまりにも多くの両親が、家族統治という責任を自分たちの肩からすると落としてしまう。悪い傾向を抑え、弱い原則を強め、品性の良い、美しい特性を発達させ、思いと体の全力を正しい水路に向けるには、熱心な心からの働きを要する。ご両親がた、あなたがたは精力的に忍耐強く愛をもってあなたがたの働きを行わないのであろうか。神が恵みの露で水をやり、あなたに豊かな収穫を与えてくださるようにと熱心に祈りつつ、尊い種を日々蒔きなさい。神の御子は罪深い反抗的な者たちを贖うために死なれた。わたしたちは自分自身の愛する子供たちを救うためにどのような骨折りまた犠牲にしり込みするのであろうか。

教訓と模範により、幼い者たちが神と神のみ言葉への崇敬の念を教えられるようにしよう。わたしたちの若者の多くは、両親の献身が足りないゆえに、心が不信心になってきている。神の律法が家族全体の律法でなければならない。父親と母親は子供たちが神のご品性を理解するよう導きながら、靈感の言葉と自然の書の双方から彼らを親切に忍耐強く教えよう。彼らが絶えずこのお方の御心を知り、行うよう努めることを、彼ら自身の生活の中で示させよう。天父の是認を得るということは、絶えず子供たちの思いの前に保つべき大きな動機である。神の奉仕は、退屈な仕事としてではなく、尊い特権として、すなわちこの世で誉れある有益で幸福な生活を楽しみ、また来るべき生涯では、限りなくさらに大きな誉れと有用性と喜びを楽しむことのできる特権として示されるべきである。

神はご自分のみ座から命の道に沿って光がすべてを照らすことをお許しになった。昼は雲の柱、夜は火の柱が古代イスラエルのようにわたしたちの前に動いている。約束の地へ子供たちを自分たちと一緒に連れて行くのは、古代の神の民の特権であったように、今日のクリスチャンである両親の特権である。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1881年11月24日)

祝福された家庭環境

「あなたがたがこれらのおきてを聞いて守り行うならば、あなたの神、主はあなたの先祖たちに誓われた契約を守り、いつくしみを施されるであろう。あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたの数を増し、あなたに与えると先祖たちに誓われた地で、あなたの子女を祝福し、あなたの地の産物、穀物、酒、油、また牛の子、羊の子を増されるであろう。」(申命記 7:12,13)

高価な家屋、念の入った家具、装飾、奢侈、安逸は、幸福で有益な生活の重要条件をみたくすものではない。イエスは今まで人類の間でなされた働きの中で一番大きい働きをするためにこの世界にこられた。イエスは神の大使として、人生の最大の結果を得る生活法をお教えるようになるためにおいでになった。神である父がそのみ子のために選ばれた環境とはどんなものであったろうか。ガリラヤの丘の上の人里離れたところにある家、正直で尊い労働によってさきえられた家庭、単純な生活、困難と苦労をともなった日々のたたかい、克己、経済、忍耐、喜びにあふれた奉仕、母のそばでの聖書研究の時間……。各時代の最も善良で高尚な人々の多くもこれと同じであった。アブラハム、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ダビデ、エリシャの歴史を読んでみなさい。またそれ以後の、高い責任のある地位をりっぱに果し、その感化が社会の向上に非常に役だった人々の生涯を研究してみなさい。

こうした人々の中で何人がいなかの家庭で育ったであろうか。彼らはぜいたくを知らなかった。また青年期を娯楽に費やさず、多くは貧困と苦難と戦わねばならなかった。幼いころから働くことを覚え……悪友とまじわる機会がきわめて少なく、自然の楽しみと健全な友情とに満足し……た。

子供に残すどんな財産よりもすぐれてよいのは健康な身体と健全な頭脳とりっぱな品性である。……

気が散る都会の生活から離れ、子供とまじわれる場所、神のみわざを通して子供が神について学ぶことができる場所に行き、真実で有用な生涯を築くために子供を教育しなさい。(ミズリー・オブ・ヒーリング 337～339)

6月3日

両親の特権

「われらの神、主にくらぶべき者はだれか。主は高き所に座し、遠く天と地とを見おろされる。また子を産まぬ女に家庭を与え、多くの子供たちの喜ばしい母とされる。主をほめたたえよ。」(詩篇 113:5,6,9)

あなたがたの子供たちに、教訓と同様に模範によって、単純な食事をするのを教えなさい。彼らに勤勉であること、すなわち単に忙しくするのではなく、有益な労働に携わることを教えなさい。彼らが幼年期であっても、神が彼らに求めておられることを教えなさい。いたるところに道徳上の墮落に直面しなければならないこと、イエスの許に来て自分自身を、すなわち体と精神をこのお方に捧げる必要があること、またこのお方の内に彼らはあらゆる誘惑に抵抗するための力を見出すことを、教えなさい。彼らの思いの前に常に、自分たちが単に自らを喜ばせるためではなく、気高い目的を果たす主の代理人となるために創造されたことを覚えさせなさい。誘惑が利己的な放縦の道へとかりたてるとき、サタンが彼らの視野から神を締め出そうとするとき、「主よ、打ち負かされないように助けてください」と嘆願しながら、イエスを見るようにと彼らに教えなさい。天使たちが彼らの祈りに応えて、彼らの周りに集まり、彼らを安全な道に導いてくれる。

キリストは、弟子たちが世から取り去られるのではなく、悪から、すなわち、彼らがいいたるところで出会う誘惑に負けることから守っていただけるようにと、彼らのために祈られた。これがどの父親と母親も捧げるべき祈りである。しかし彼らは自分の子供たちのためにこのように神に祈っておきながら、子供たちが自分の好きなようにさせておくべきであろうか。彼らは食欲が支配権を取るまで好きなようにさせ、それから子供たちを抑制するつもりであろうか。否。節制と自制心はごく幼いときから教えなければならない。この働きの責任は大部分母親にかかっている。もっとも優しい地上の絆(きずな)は、母親とその子供の間の絆である。子供は、より強くより優しいこの一致の絆のゆえに、父親の生活と模範からよりも母親のそれによって、たやすく印象を受ける。しかし母親の責任は重いものであり、父親の不断の助けを必要としている。(クリスチャンの教育 165,166)

わたしたちは主の嗣業を どのように取り扱うか

「見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。」(詩篇 127:3)

使徒 [パウロ] は家族関係の重要さと家庭の力強い感化力を認めている。手紙の中で彼は家族にある規則を課している。子供たちについて「これらの者に、まず自分の家で孝養をつくし、親の恩に報いることを学ばせるべきである。それが、神のみこころにかなうことなのである」と言っている (テモテ第一 5:4)。(健康改革者 1877 年 12 月 1 日)

愛はすべての隔てを打ち破る。叱りつけたり、大きな声を出したり、怒って命令したりすることがないようにしなさい。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」とのご命令に従いなさい (詩篇 46:10)。主は、精神を律するために絶えず努力する親に、豊かな祝福をお与えになる。キリストの恵みは、品性の辛辣な特質を和らげ、粗野な気質を穏やかにする。

力で支配する人々は、愛によって支配する人々に比べてはるかに感化力が少ない。厳しさは心を頑なにし、抵抗する思いを起こさせる。優しさは心を和らげ、もっとも頑固な意志を征服する。

親の一人びとりに、神は「自分自身によく注意しなさい、父よ、あなた自身に。母よ、あなた自身に」と仰せになる。あなたが子供たちを処罰することができる前に、あなたは神の訓練に自分の身を任せなければならない。高潔な動機と気高い大志で満たされなければならない。日々自分の信任にもっともふさわしい者となるよう自ら努力をしなければならない。そのとき神はあなたに協力してくださる。

家族がよく団結しているべきである。父親と母親は自分たちの責任を共によく考え、子供たちにとってもっとも益になることのために共に働くべきである。彼らの間に不一致があってはならない。子供たちの前で決して互いの計画を批判したり、互いの判断に疑問をさしはさんだりしてはならない。もし妻が経験不足であれば、彼女は夫が子供たちの救いのために働くとき、自分の働きがどこで彼の働きをもっと困難にしているかを見出すよう努力をすべきである。そして夫は彼女に賢い勧告と愛に満ちた励ましを与え、妻の手を支えるべきである。(ビュー・アンド・ワールド 1902 年 7 月 8 日)

6月5日

より良い識別力を求める

「その子の育て方およびこれになすべき事はなんでしょうか。」(士師記 13:12)

〔多くの者は〕自信をもって、神がそのみ言葉の中でわたしたちに与えてくれた子供たちの訓練方法よりもっと良い方法を知っていると考える。「いかに子を育て、この子に何をなすべきかを、わたしたちに教えて下さい」という熱心な切なる祈りが、彼らの心から上らない。彼らの訓練の結果は、彼らの学識と聡明さすべてをもってその人々の自慢する知恵が、愚かさ以外にないことを証明する。甘やかし、気ままにさせる両親は、子供たちの赤ん坊時代から抑制なく成長するのを許す。こうして彼らのあつかましく利己的で不愉快なやり方が、習慣として固まり、彼ら愛することも愛されることもない者にする。……

親が自分の子供たちを偏愛するのは、自然のことである。特にこれらの親が自分たちには優秀な能力があると感じている場合、自分たちの子供も他の子供たちに勝って優秀であるとみなす。それゆえに他人であれば、厳しく非難することを、自分の子供のときは、利口で気が利いていると大目に見る。このえこひいきが自然となっている間は、不公平であり、クリスチャンではない。わたしたちが自分の子供たちの過ちを正さないままにするなら、彼らに大きな不正行為がなされるのである。多くの者は、「彼らは罰するには幼すぎる。もっと大きくなって説得できるようになるまで待とう。彼らはそれらの悪い傾向の多くを捨てるようになる。」と言い訳して、子供たちの内に品性の悪い特質を育てる。このようにして彼らの悪い習慣は、それらが第二の性質となるまで成長し、強固になるままにされる。……そのような進路の悲しい結果を十分に知ることができるのは永遠においてのみである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年11月24日)

わたしたちは大きな危機のために子供たちを準備させているのであろうか。わたしたちは敵の立場と彼らの戦いの方法を自分自身と家族が理解する準備をしているのであろうか。わたしたちの子供は原則と義務のあらゆる事柄にしっかりと揺るがないでいられるように、決定の習慣を形づくっているのであろうか。わたしたちはみな時のしるしを理解し、自分自身と子供たちを十分に準備させ、神が、戦いのときに自分たちの避けどころ、またとりでとなってくださることができるようにとわたしは祈る。(レビュー・アンド・ヘルド 1889年4月23日)

わたしには逆転した統治があるのだろうか

「わたしはわらべを立てて彼らの君とし、みどりごに彼らを治めさせる。民は互に相しえたげ、人はおのおのその隣をしえたげ、若い者は老いたる者にむかって高ぶり、卑しい者は尊い者にむかって高ぶる。……わが民は幼な子にしえたげられ、女たちに治められる。ああ、わが民よ、あなたを導く者はかえって、あなたを迷わせ、あなたの行くべき道を混乱させる。」(イザヤ 3:4,5,12)

両親は一般的に子供たちに対して適切な進路をとっていない。彼らは子供たちにしかるべき抑制をせず、彼らが自尊心にふけり、自分自身の性癖にしたがうままにしている。古代においては親の権威が尊重されていた。子供たちは両親に従い、彼らを畏れ敬っていた。しかしこの終わりの時代には秩序が逆転している。ある両親は子供たちの言いなりになっている。彼らは子供たちの意志に反対するのを恐れ、彼らに譲る。しかし子供たちが両親の屋根の下におり、その庇護の下にいるかぎり、親の支配に従うべきである。親は自分たちの見解が正しいと見える道に従うことを要求しつつ、断固として動くべきである。……

両親は子供たちを抑制するよう要求されている。子供たちの救いは大部分両親の追い求める進路にかかっている。(教会への証 1巻 216,217)

あなたの子供たちは今あなたの支配の及ばないところにおり、あなたが命じるには大きくなりすぎているとあなたは言い訳をする。あなたはこの点において間違っている。あなたの子供たちはだれも、あなたの屋根の下に保護されているかぎり、あなたの権威を尊重し、あなたの統率に従うのに大きすぎることはない。……

しかし上の二人の子供たちが今あなたの支配が及ばないところにいることを許しているが、神があなたに光を送り、あなたが彼らを滅びにむかって甘やかしていること、またあなたが彼らを律するべきことを知らされたときには、そうではなかった。しかし、あなたには、罪人の道に歩み、不従順で感謝をしない、汚れた、神を愛するよりは快楽を愛する三人の年下の子供たちがいる。あなたの末の子は自分の兄弟の足跡に従っている。あなたは彼に対してどのような進路を追い求めているのであろうか。あなたは勤勉と有用性の習慣をつけるよう、彼を訓練しているであろうか。あなたは非常に怠っていた働きを取り上げ、過去を贖っているであろうか。あなたは神のみ言葉におののいているであろうか。(同上 2巻 623,624)

6月7日

健全な抑制

「主は……〔アブラハム〕のことを言われた『わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。』（創世記 18:17,19）

母親の働きは大いなるものであるが、父親もまた子供たちの教育と訓練でなすべき役割を持っており、彼は忠実にその働きを行うこの上なく厳粛な義務のもとにいることを決して忘れてはならない。特に子供たちの年齢が進むとき、抑制し、管理し、導くために、母親の感化力と調和して、父親の感化力が必要となる。……

神は、父親一人びとりが子供たちに正しい教訓と良い模範を与えるだけでなく、悪を行おうとする彼らの傾向を機敏にまた決断力をもって抑制することをお命じになる。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年11月10日）

あなたの子供たちの教養に細心の注意を払いなさい。真理の原則のうちに適切にしつけられ、神への愛と畏れが品性に織り込まれた一人の子供は、世の中では評価できないほど善のための力を持つ。賢い両親の働きは、世には決して正しく評価されないが、審判を行う者がその席に着き、かずかずの書き物が開かれるとき、彼らの働きは神がご覧になるように見え、人々と天使たちの前で報われる。忠実な方法で育てられた一人の子供は世の光であったことが知られる。この子供の品性建設を見守るには涙と不安と眠れぬ夜を要したが、その働きは賢くなされ、その両親は主人であるお方の「よくやった」とのみ声を聞く。

両親がた、あなたがたの子供たちがついにはクリスチャンになることができるために、彼らが非常に幼い間に、その思いを訓練するのを始めなければならない。彼らの救いのために全力を尽くそう。彼らが神の王国で尊い宝石として輝くのにはふさわしくなるために、あなたがたの保護のもとに置かれているかのように行動しなさい。彼らが責任をもつことができる年齢ではなく、自分たちの罪を悔い改めキリストを告白するのに十分な年齢ではないといった誤った考えをもって、破滅の穴の上で彼らを寝かしつけるようなことがないように気をつけなさい。（パイブル・エコー 1893年9月1日）

わたしたちの子供たちへの真の愛

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ 4:5,6)

冷淡やうち解けない気分のために両親と子供の間へだたりを生じさせてはならない。両親は子供と親しみ、その趣味や性質を理解しようと努力し、子供の気持になって子供の心の中にある考えを引き出すべきである。

両親方よ、あなたが子供を愛し、子供を幸福にするために全力を尽していることを子供に知らせなさい。そうするならば必要な束縛も子供の柔軟な頭には非常に大きい効果をもたらす。「彼らのみ使たちは天にあって、天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰いでいる」ことを覚えて、優しさとおわれみをもって子供を取り扱いなさい(マタイ 18:10)。天使が神より与えられた働きを自分の子供にしてほしいと思うならば、自分のなすべきことを果し、天使と協力しなさい。

真の家庭における賢明で愛情のある指導のもとに育った子供は快楽や友人を求めてさまよい出る気持を持たない。罪悪も子供の心をひかず、家庭にみなぎる精神がその品性を形成し、子供が家庭を出て、社会にたつとき、誘惑に対して強い防御となる習慣をつくり、道義を築くのである。

子供も両親と同じく家庭においては重要な義務がある。子供は家庭という会社の社員であることを学ばなければならない。彼らは養育され、衣類を与えられ、愛され、世話されているのであるから、自分の家庭の重荷を分担して、おのが分を尽し、自分が一員となっているその家庭にできるだけ幸福をもたらし、こうした数々の恩恵にこたえるべきである。

子供はときどき、束縛されると怒りたくなるものであるが、大きくなった後、無経験な時代に自分を保護し、指導した忠実な養育と厳格な注意について両親をほめたたえるであろう。(ミズリー・オブ・ヒーリング 362,363)

6月9日

子供たちの心の近くに

「〔バプテスマのヨハネ〕はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ……、整えられた民を主に備えるであろう。」(ルカ 1:17)

親は自分の子供たちの救いのために、努力を倍加すべきである。忠実に彼らを教え、子供たちができかぎり自分たちの教育を寄せ集めるがままに放っておいてはならない。彼らが無分別に善と悪を学んでも、いつか善がまさって、悪がその感化力を失うであろうとの考えをもって放っておいてはならない。悪は善よりも早く増し加わる。彼らの学んだ悪が、多くの年月の後に消されることもあり得る。しかし、だれがその危険を犯すであろうか。時は短い……子供たちのために友人を選ぶのは、親の義務であって、子供が自分で選ぶのを許してはならない。もし親がこの働きをしないのなら、だれがするであろうか。あなたが子供たちのために持つべき関心を、他人が持つことができるであろうか。彼らは親が持つような変わらない心遣いや深い愛を持つことができるであろうか。(霊的賜物 4巻 142)

ある親は自分の子供たちにあまりにも自由を与えることによって間違いを犯す。彼らはときどき、彼らを信用するあまり、彼らの欠点が見えない。子供たちに、費用をかけて、両親や保護者の同伴なしに少し離れた訪問を許すことは間違っている。それは、子供たちに悪影響を及ぼす。(同上 144)

わたしの子供たちが墮落することから守るために、彼らが他の男の子たちと同じベッドや部屋で寝ることを許したことがない。旅行中も状況により必要であれば、彼らを他人と寝かせるよりは、むしろ彼らのために床の上にちょっとした寝どこを用意した。わたしは彼らを乱暴で無礼な男の子たちとの交わりから守るよう努め、また何か良い刺激を与えて、家庭での彼らの仕事を喜ばしく楽しいものとしてきた。彼らの思いと手を忙しくさせておくことによって、彼らは街で他の男の子たちと遊び、街の教育を得るような時間はほとんどなかった。(厳肅な訴え 56)

あなたは、自分の子供たちがどのような種類の教育を受けているかを知らずに自分がいなくて他の子供たちと交わるのを許すのであろうか。彼らが他の子供たちとだけであることを許してはならない。彼らに特別な配慮をなさい。(家庭の教育 107)

わたしの価値ある群れを世話する

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである。」(マタイ 26:41)

子供たちを治める責任を放棄して他人に渡すことがないように気をつけなさい。だれ一人として、神があなたにお与えになった責任からあなたを正当に解放できる人はいない。多くの子供たちは、自分たちの家庭の統治における親戚や友人の干渉によって、すっかり台無しにされている。母親は、賢明に自分の子供を管理しているときに、自分の姉妹や母親が干渉することを許すべきではない。母親は、自分の母親からごく最上の訓練を受けたかもしれないが、十のうち九の場合まで、祖母は自分の娘の子供たちを甘やかし、無分別なほめ言葉で台無しにしてしまう。母親の忍耐強い努力はこのような一連の取り扱いで無効にされてしまう。概して祖父母は自分たちの孫を育てるのにふさわしくないとされている。男女は、自分たちの両親に敬意を払い、尊重すべきである。しかし、自分自身の子供の管理のことに関しては、彼らに何の干渉も許さず、自分自身の手にしかりと統治の手綱を握っているべきである。

母親はこの子供たちの訓練の働きにおいて、いつも最高位を占めているべきである。父親に重大かつ重要な義務が課されているが、母親は、ほとんどの時間を特に自分の子供たちが幼いころと一緒に過ごすため、いつも彼らの特別な指導者であり、同伴者でなくてはならない。……

親は自分の立場の責任に関して、無気力な眠りのうちにいるかのようである。彼らは世に罪と堕落が満ち、新聞は犯罪と悲惨さの報道で満ちているのを見る。それなのに、これらのことによって目覚めて、生活とその要求に対する正しい見解をもち、自分たちの子供たちに正しい習慣をつけるよう育てるためにさらに警戒しようとしなさい。人々はこの時代の青年たちの道徳的状態が低いこと、また彼らの悪への傾向に衝撃を受けている。しかし、どこに主な原因があるのかに気づいている人はほとんどいない。わたしたちは親が目覚めて、神から自分たちに与えられた責任を正しく理解しないかぎり、社会における改革を見ることはない。(健康改革者 1878年 11月1日)

6月11日

神の憐れみに協力する

「しかし主のいつくしみは、とこしえからとこしえまで、主を恐れる者の上であり、その義は子らの子に及び、その契約を守り、その命令を心にとめて行う者にまで及ぶ。」(詩篇 103:17,18)

宗教的な教えが、幼少のころより子供たちに与えられるべきである。それは処罰するような精神ではなく、快活で幸せな精神で与えられるべきである。母親は、子供たちが気づかないようなかたちで誘惑が来ないように、絶えず見張っている必要がある。親は賢明な快い教えによって、自分の子供たちを守るべきである。これらの経験のない者たちのまさに最高の友として、彼らは勝利する働きにおいて彼らを助けるべきである。なぜなら、勝利者になることが彼らにとってすべてを意味するからである。彼らは正しいことをしようと努めている自分自身の愛しい子供たちを主の家族の若い一員とみなし、服従の大路にまっすぐな道を作る彼らを助けるために、真剣な関心を感じるべきである。愛情深い関心をもって、彼らに日々神の子となること、また神への服従のうちに意志を明け渡すことの意味を教えるべきである。彼らに神への服従には、自分の親への服従が含まれていることを教えなさい。これは、日々、時事刻々の働きではなくてはならない。両親がたよ、見張りなさい、見張って祈りなさい。そして自分の子供たちをあなたの連れ合いとしなさい。(教会への証 6 巻 93,94)

あなたは自分の子供たちを愛をもって正すべきである。あなたが怒るまで彼らを自分自身の道に行かせておいてから、彼らを罰してはならない。そのような矯正は、それを矯正するよりも、ただ悪を助長するだけである。あなたが自分の子供たちに対する義務を忠実に果たした後は、彼らを神の許へ連れて行き、あなたを助けて下さるように求めなさい。このお方にあなたが自分の分を果たしたことを告げ、それから信仰のうちにあなたのできないこのお方の分を果たして下さるよう求めなさい。子供たちの気質を和らげ、彼らを神の聖霊によって穏やかに優しくして下さるよう、求めなさい。このお方はあなたの祈りをきいて下さる。このお方はあなたの祈りに応えることを望まれる。(ビュー・アソッド・ハルム 1854 年 9 月 19 日)

神は高く上げられたお方であるが、祈りの声はこのお方のみ座に届く。クリスチャンの母親は万物の御父が心にかけておられる。このお方はあなたの嘆願を退けられたり、あなたや子供たちを戦いの日にサタンに翻弄されるがままにされることはない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1909 年 3 月 3 日)

各時代のための奇跡

「後になって、あなたの子が『これはどんな意味ですか』と問うならば、これに言わなければならない、『主が強い手をもって、われわれをエジプトから、奴隷の家から導き出された。』」（出エジプト記 13:14）

すべての人が世とその感化力との接触の中で直面しなければならないテストのために自分の子供たちを準備することにおいて、あまりにも断固とした働きがなされてこなかった。子供たちは、神の戒めとイエス・キリストの証に忠実であり続けるすべての人々の前にある恐るべき発布の時に誘惑に抵抗し、正しいことの原則に固く立つのに十分強い品性を形成するための助けを受けてこなかった。

親は青年たちが日ごとに直面しなければならない誘惑に彼らがどのように勝利するかを教えるために、それらの誘惑を理解する必要がある。（ビュー・アソド・ハラド 1911年10月12日）

クリスチャンの父親は自分の家族のハウス・バンド（家の帯）であり、彼らを神のみ座近くに結びつける。彼の子供たちへの関心は決してゆるんではならない。家族に男の子のいる父親はこれらの落ち着いた男の子たちをまったく母親の世話に任せっぱなしにすべきではない。これは彼女にとって、重すぎる重荷である。彼は自ら彼らのつれ合い、また友となるべきである。彼は悪い交友から彼らを守るために自ら尽力すべきである。母親にとって自制を働かせるのは難しいであろう。もし夫が、自分の妻の弱さが子供たちの安全を脅かしているのを認めるならば、自らもっと重荷を引き受け、自分の息子たちを神に導くためにできることをすべてなすべきである。

親は、非常に多くのことがかかっている働きを自分たちだけで実行するよう放っておかれてはいない。キリストは、「わたしの許に来なさい。わたしがあなたの重荷とあなたの困惑を負ってあげよう。天と地の一切の力はわたしに与えられている。わたしがあなたに力を与える」と言われる。父親と母親の方がた、このお方のみ許へ行きなさい。あなたがたの多くは、もっとキリストと密接につながらない限り、自分の信任をしかるべく果たすことができない。ある者は、「なぜ主は地上におられたときのように、今日奇跡を働いて下さらないのか」と尋ねる。家庭において親にキリストの生活を送らせなさい。そうすれば自分の子供たちの生活における変化が、神の奇跡を働く力を証するようになる。（同上 1902年7月8日）

6月13日

わたしはどのような口調で 話しているであろうか

「〔徳ある女は〕彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。」(箴言 31:26)

あなたの愛情を自分のまわりにいる者と分かち合い、彼らの幸福に貢献できるすべての機会をとらえなさい。親切な言葉、同情のまなざし、感謝の表現は、苦闘している孤独な多くの人にとって、渇いた魂への一杯の冷たい水のようなものである。元気づける一言、一つの親切な行為は、弱った肩に重くのしかかっている重荷を軽くするために遠くに及ぶ。真の幸福が見出されるのは、無私の働きである。そしてそのような奉仕のすべての言葉や行為は、天の書にキリストになされたものとして記録される。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40)。……

まなざし、声の調子、行動—これらはみな家庭の輪を幸福にするか損なうかの感化力を持つ。それらは子供たちの気質や品性を形成している。それらは信頼や愛情をいだかせるか、さもなければ壊しがちである。すべてはその感化力において、善か悪か、幸福かみじめかのいずれかである。わたしたちは家族に対して、み言葉の知識を実生活に持ちこむという負債を負っている。わたしたちが家族関係においてつながりのある人々を純潔にし、啓発し、慰め、励ますためにできることはすべてなされるべきである。(教会への証 7巻 50)

ご両親がた、あなた自身の家庭における教会で、恵みの働きを始めなさい。あなたがたが天使たちと協力していることがあなたの子供たちにわかるように、自らふるまいなさい。必ず日ごとに改心しなさい。あなた自身と子供たちを、神の王国における永遠の命のために訓練しなさい。御使たちはあなたの強力な助け手である。サタンがあなたを誘惑するであろうが、屈してはならない。敵につけこまれるようなことを一言も語ってはならない。……

それぞれ家族の一員は次のように決心しようではないか。「わたしはクリスチャンになる。なぜなら、この地上の学校で、天国のもっと高い学級に入れるような品性を育てなければならないのだから。自分が人にしてほしいと思うように、人にしてあげなければならない。なぜならこの世でキリストを表す人たちだけが、天の大庭に入ることができるのだから」。家庭生活をできるだけ天国に近いものにしなさい。(家庭の教育 599)

不必要に気を散らすものを禁じる

「わたしは全き道に心をとめます。……わたしは直き(まっつき：欽定訳)心をもつて、わが家のうちを歩みます。わたしは目の前に卑しい事を置きません。」(詩篇 101:2,3)

詩篇 101 篇に記録されているダビデの誓いは、家庭の感化力を守る責任を担っているすべての人の誓いであるべきである。(天国で 215)

家庭での不忠実と、外からの偶像礼拝的な感化力を通して、ヘブルの青年たちの多くは、神が彼らのために計画しておられた教育とは大幅に違った教育を受けた。彼らは異教徒の方法を学んだ。……

わたしたちは神の特別な民として、わたしたちの神への忠誠を維持するために注意深くなければならない。悪が世に増し加わる一方で、神の民は理解力と、神のみ事業への聖化された献身と、義と不義を識別する知覚力の鋭さを増し加えるべきである。わたしたちはこの時代に、どんな危険をも犯す余裕はない。……

わたしたちは善を生みださないようなすべての感化力を家庭から閉め出すために努力すべきである。この問題において、ある親は大いに学ぶべきことがある。物語雑誌や小説を好きに読んでもかまわないと感じる人々にわたしは言う、あなたは自分が刈り集めたくないような収穫の種をまいているのであると。そのような読み物からは、霊的な力を何も得られない。むしろみ言葉の純粋な真理に対する愛を破壊してしまう。小説や物語雑誌という手段を通して、サタンは神のみ言葉を勤勉に研究すべき思いを、非現実的でつまらない思想で満たすために働いている。こうして彼は、人生の厳しい問題に要求される時間とエネルギーと自律性を何千何万もの人々から奪っているのである。……

大いなる祝福と霊的な強さは、重要でないものを取り除き、堅い決意をもって主の来臨のための準備の働きに取りかかる家族にもたらされる。神は親に彼らの子供たちがキリストのような経験を得るのを助ける働きを委ねてこられた。あなたは、言葉だけでなく信心深い模範によって、このお方のための決定的なメッセージを担うことにより、主の道を備えるであろうか。(ビュー・アソド・ハルト 1911 年 10 月 5 日)

6月15日

キリストの助けを通して望む

「わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである。」(イザヤ 49:25)

わたしたちは万事につけ神の勧告に従うことを求めよう。なぜなら、このお方は知恵において無限だからである。過去において、わたしたちが自分たちの子供や青年たちのためにできたはずのことを十分にできなかったとしても、今悔い改めて時を償おう。……「前進せよ」とのメッセージは今も聞こえており、繰り返されている。(教会への証 6巻 149,150)

イエスはすべての母親の心の重荷をご存じである。このお方はすべての緊急時における彼女の最上の友であられる。このお方とこしえのみ腕は、神を恐れる忠実な母親を支える。このお方は地上におられたときに、貧困や欠乏に苦闘し、自分の子供たちを養育するのに多くの不安な心配事や困惑を持った母親をもっておられた。このお方は労するすべてのクリスチャンの母親に同情し、彼女の熱心な祈りを聞かれる。悪魔にとらわれた娘を持ったカナンの中の不安な心を取り除く目的で長い旅路を行かれた救い主は、そのとき嘆願者のためにして下さったのと同じように、今日の苦しむ母親のために多くのことをなし、その子供たちを祝福して下さる。

埋葬のために運ばれていたただ一人の息子をやもめに返しておやりになったお方は今日、子供を失った母親の苦悩によって心を動かされる。マリヤとマルタに埋葬された兄弟を戻しておやりになり、ラザロの墓のところで同情の涙を流されたお方、マグダラのマリヤを許されたお方、ご自分が苦悩のうちに十字架にかかっておられるときにご自分の母親を覚えておられたお方、ご自分の復活後に泣いている女たちに姿を現し、「『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」と言って、彼らをよみがえられた救い主を宣べ伝えるご自分の使命者とされたお方は、今日女たちの最上の友であられ、彼女がご自分を信頼するならば、必要な時にいつでも助けて下さる。……

母親は自分たちの心配や困惑をもってイエスの許へ行くことができる。彼らは自分たちを支える十分な恵みと、自分たちの子供の管理における助けを見出すことができる。

自分の重荷を救い主の足元に置くすべての母親のために門は開かれている。(パウル・エー 1893年9月1日)

助けになることを教える

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

あまりにもしばしば、親のとり行動が子供たちのうちに悪を助長してしまう。厳しく容赦しないため、彼らを反逆へと追い立てる。その後、なぜこれほどまで悪い品性の特質をもっているのかといふかり、非常に熱心に子供の頑固な意志を砕こうと努める。彼らが間違いを犯しているのは、彼の意志を砕こうとしているところである。子供の意志は、砕くのではなく、訓練し、たわませるべきなのである。(ビュー・アンド・ハラルド 1902年7月8日)

子供たちは有用な者となるよう教育することができる。彼らは生来、活動的で忙しくしている傾向がある。そしてこの活発さは訓練を受け、正しい方向へと導かれやすい。各々の子供に、親や保護者に対して責任をもって果たすべき何か特別な仕事を持たせることによって、子供たちは若いときに、日ごとの自分たちの重荷を負うよう教えることができる。彼らはこうして若いうちに義務のくびきを担うことを学ぶようになる。そして、自分たちの小さな仕事をなすことが喜びとなり、善行によってのみ得られる幸福を彼らにもたらすのである。……

子供たちが大きくなると、さらに多くを彼らに要求することができる。彼らの仕事は、消耗させるような労働でも、疲れ果てて彼らを意気消沈させるような長々とした働きであってもならない。そうではなく、最も望ましい身体的な発達や、思いや品性の適切な育成のために、賢明に選択されたものであるべきである。

仕事は子供にとって良いものである。時間の大部分を有益な者として働きに携わるとき、子供たちはもっと幸福になる。彼らの無邪気な楽しみは、自分たちの仕事を首尾よく成し遂げた後のほうが、さらに熱心な喜びをもって楽しむものとなる。……母親は、自分たちの子供たちを小さな尊い助け手とすることができる。そして彼らに有用な者になることを教えるかたわら、自分たちも人間の性質や、これらの元気な若い人たちをどのように扱うべきかを知り、小さい者たちと接触することによって、彼らの心を温かく若々しく保つことができる。……

正しく訓練された子供たちは、年が進むにつれ、自分の友達の重荷を軽くするための労働を愛することを学ぶ。この日ごとの仕事は、怠け者がさらされている多くの誘惑に対して戸を閉じるのである。(健康改革者 1877年12月1日)

6月17日

建設的な矯正

「あなたの子を懲らしめよ、そうすれば彼はあなたを安らかにし、またあなたの心に喜びを与える。」(箴言 29:17)

子供が最初に教えられるべき最初の教訓は、服従の教訓である。彼らが自分の親に服従することを学ぶとき、彼らにとって神に服従することは難しくなくなる。服従は彼らの性質の一部となる。

しかし、親が自分の子供たちに服従を教えることができる前に、彼ら自身が神への服従によって教訓を学ばなければならない。彼らが自己規律の意味と価値を学ぶまでは、いかに正しく自分の子供たちを律することができようか。彼らがまず自ら、自制、自己否定、忍耐、忠誠の困難な高さまでのぼらない限り、いかに自分の子供たちをその高さにまでに導きのぼることができようか。

親が子供の前で気分にかけて自制を失っておいて、なぜ子供がこんなに制しにくいかをいぶかる。しかし、彼は何を期待することができようか。子供は模倣するのに早い。彼らは、自分の親が怒りを爆発させることによって教えた教訓を実行に移しているにすぎないのである。……

服従と反逆は罰せられなければならない。しかし、罰はキリストの精神をもって与えられるべきことを覚えていなさい。服従を、怒りの言葉の嵐をもってではなく、断固としてかつ思いやりをもって要求しなさい。そして、あなたの子供を律する必要が生じたときには、あなた自身の天父への関係を思い出しなさい。あなたは、このお方の前に全き歩みをしてきたであろうか。あなたは、強情で不服従ではないであろうか。あなたは絶えずこのお方を悲しませてはいないだろうか。しかし、このお方はあなたを怒りのうちに取り扱われるであろうか。また、あなたの子供が悪への傾向を受け継いだのはあなたからだということも覚えていなさい。あなたがどんなにしばしば成長した子供のようにふるまっているかを覚えていなさい。あなたはクリスチャン経験が何年にもなり、自己規律のために多くの機会があったにもかかわらず、何とたやすくあなたは刺激されて怒りを発することであろう。そうであれば、あなたの子供たちはあなたほど自制を学ぶ機会がなかったことを覚えて、彼らを優しく扱いなさい。……

これほどまでに扱いにくい気質を子供に伝えてしまったことに対して、神に許しを求めなさい。このお方に、あなたの強情な子供を、あなたと彼の天父へもつと近く引き寄せるような方法で扱うことができるように、知恵を与えて下さるよう求めなさい。(ビュー・アソド・ヘルド 1902年7月8日)

価値ある忍耐強い辛抱

「あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。」(ルカ 21:19)

神はあなたを愛しておられ、あなたの多くの過ちや間違いにもかかわらず、あなたに対して非常に忍耐強い。あなたのために働かせて下さるこの優しくあわれみ深い神の愛を見るとき、あなたは自分の子供たちに対してもっと優しく寛容で忍耐づよく許す者となるべきではないであろうか。(教会への証 4巻 362)

わたしたちは、厳しい非難によって子供たちを失望させたり、感情的な矯正によって彼らをいらだたせておきながら、後になって衝動が変わると、彼らをキスしてなだめたり、有害なほうびによって彼らを損なったりするようなしつけには、まったく共感しない。過度な甘やかしも不当な厳しさも同様に避けるべきである。油断のない見張りと堅固さを欠くことができない一方で、同情と優しさもまた不可欠である。ご両親がた、自分が誘惑と苦闘している子供たちを扱っていること、それらの悪の衝動は、彼らにとって成人した人々を襲う誘惑と同様に抵抗するのが難しいことを覚えていなさい。本当に正しいことをしたいと願っている子供たちも何度も何度も失敗し、そのたびに精力と辛抱のための励ましを必要としていることがある。これらの若い思いの働きを祈りの気遣いをもって見張りなさい。すべての良い衝動を強め、すべての高尚な行動を励ましなさい。……

親の働きは継続的である。それを一日は精力的にとりかかりながら、翌日はなおざりにするようなものではない。多くの人は、働きを始める用意はできているが、辛抱強くそれを続けようとしない。彼らは何か大きなことをしたり、大きな犠牲を払うことを願っているが、毎日の生活の小事におけるたゆまない心遣いや努力や、時々刻々、強情な傾向を取り除いて訓練することや、少しずつ必要に応じて教えたり、譴責したり、励ましたりする働きにはしり込みする。彼らは頂上に一歩ずつ進んで行く代わりに、一足飛びに到着し、いっぺんに子供たちの欠点が矯正され、正しい品性を形成することを見たいと願う。しかし、彼らの希望が直ちに実現しないため、希望を失う。そのような人はみな使徒の次の言葉を思い出して勇気を得よう。「わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる」(ガラテヤ 6:9)。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年11月24日)

6月19日

時の緊急性

「愛は隣りに人を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。」(ローマ 13:10, 11)

今ほど多くのことが危険にさらされている時代はかつてなかった。この世代ほど重要な責任が負わされている世代はかつてなかった。なぜなら、神はこの時代の人々に、最後の警告のメッセージを委ねてこられたからである。

ご両親が、次の厳粛な問いを自ら問うてみなさい、「わたしたちは自分の子供たちを親の権威に服従するように、またこうして神に従い、神を愛し、このお方の律法を行動と生活の最高の導き手として固守するよう教育してきたであろうか。わたしたちは、彼らが善を行うために巡回し、キリストのための伝道者になるよう教育してきたであろうか」。信じるご両親がた、あなたの子供たちは、戦いの日に主のための決戦を戦わなければならないであろう。そして平和の君のために勝利を得るとき、彼らも自分自身のために勝利を得るであろう。しかし、彼らが主を畏れるように育てられておらず、キリストの知識も天とのつながりもないならば、道徳的力がなく、エホバの安息日にとって代わるために偽の安息日を打ち立てることによって、あえて天の神より自らを高める地上の支配者たちに屈するようになる。この権力の優しい憐れみは、牢獄や土牢において表されるであろう。すでに準備は進められており、獣の像を作ることになる動きは進展しつつある。預言の予告を成就する諸事件が、地上歴史において引き起こされるであろう。……

父親がた、母親がた、わたしはあなたがたに、自分の子供たちのために最も熱心な努力をなすよう訴える。彼らに日々宗教的な指導を与えなさい。神を愛し、正しいことの原則に対して忠実であるよう教えなさい。高尚で熱心な信仰をもって、聖霊の神聖な感化力によって導かれ、今こそ働きなさい、働きなさい。一日たりとも、一刻たりとも延ばしてはならない。自分の子供たちに、心は自制と自己否定のために訓練を受けなければならないことを教えなさい。生活の動機は神の律法と調和していなければならない。自分の子供たちがキリストから離れたまままで成長することに満足してはならない。彼らが冷たく無関心であるときに、安心してはならない。夜も日も神に叫びなさい。あなたの子供たちの魂の救いのために祈り、働きなさい。(ビュー・アソド・ヘラルド 1889年4月23日)

尊敬を教え、獲得する

「肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまう」（ヘブル 12:9）

主は、神を畏れる思いの満ちた家庭の宗教を、わたしたちが培うことを喜ばれる。親が自分の子供に対する義務を怠り、正しい原則に従って彼らを治めることをしないと、敵に彼らの生活の支配権を握る機会が与えられる。親の権威を尊重しないで許されている子供たちは、決して幸せにならない。（上を仰いで 249）

あなたの子供たちにイエス・キリストについて教えなさい。畏敬の念に満ちた口調でこのお方の尊い名をあなたのすべての教訓の中に織り込みなさい。彼らに神を愛し、このお方に対して罪を犯すことを恐れることを教えなさい。あなたは自分の子供たちを教育することばかりでなく、訓練することを命じられている。特に彼らは礼拝の家を敬うことを教えられるべきであり、礼拝中にひそひそ声や、軽々しさ、軽薄さ、無頓着な不注意、足音を立てて出ていくことなどがあってはならない。子供たちが神の家に対して持つように教えられる敬意があまりにも小さいのを見ると心が痛む。神はご自分の民に宗教的な奉仕に対する大いなる敬意を教えるよう指示を与えてこられた。親は公の集会を子供たちにとって最高の関心事とするよう研究すべきである。こうして、何がクリスチャン品性を構成しているかについて彼らが正しい印象を受けるためである。（ビュー・アズ・ワルト 1885年 4月 14日）

小さいことにあまりにも厳しく批判するのは危険である。厳しすぎる批判や、あまりにも融通がきかない規則は、すべての規則を無視するように導き、このように教育された子供はついにキリストの律法に対しても同じ軽蔑を示すようになる。

親は自分の子供を正しく導くことができる前に改心しなければならない。彼らは子供を自分たちに従わせられると期待する前に、神のご要求に従う者とならなければならない。そのとき、彼らの言葉や彼らの思いでさえもイエス・キリストにとらえられるようになる。日ごとに彼らはイエスから学び、このお方の御霊をとらえ、こうして彼らの生活にキリストに似たすがたを現すようにならなければならない。子供や青年時代は模倣する力が強いので、子供たちは自分たちの前に最も完全な型を持つべきである。このようにして、彼らが自分の親の知恵を疑問の余地のなく信用することができるためである。（ノットブック・リフレット 1巻 94）

6月21日

子供たちと一つになる

「また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせざる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ 18:5, 6)

あなたは自分の子供を扱う際に一様でない。ときには、彼らを害になるほど甘やかし、その一方でときには彼らをとても喜ばせる無邪気な楽しみを許さない。あなたは気短に彼らを追い払い、あなたにはつまらない子供じみたものに見える楽しみを彼らは喜ぶことができるのだということを忘れて、彼らの単純な要求をわかりつける。あなたはあなたの年齢の威厳から身をかかめることなく、自分の子供たちの要求を理解し、奉仕するために待機することがない。このことにおいて、あなたはキリストを模倣していない。このお方は、低い者、困窮している者、苦しんでいる者にご自分を一つにされた。このお方は小さい子供を腕に抱き、若い者たちの水準にまで下りてこられた。このお方の愛の広い心は、彼らの試練や必要を把握することができ、このお方は彼らの幸福を喜ばれた。このお方の精神が、雑踏する都市の喧騒や混乱に弱り、悪賢く偽善的な人々との接触到に疲れると、無邪気な子供たちとの交わりに休息と平安を見出された。このお方のご臨在は、決して彼らを追い返したりしなかった。天の大能者は、彼らの質問に応えるために下りて来られ、ご自分の重要な教訓を彼らの子供の理解力に見合うよう単純なものにされた。……

世的に賢く、心の頑なな者をご自分に従おうとせず、神の王国に場所を見いだす見込みが少ない一方で、これらの子供たちはご自分の勧告を聞き、自分の贖い主としてご自分を受け入れることを、このお方はご存じであった。これらの小さい者たちは、キリストの許に来て、このお方の助言や祝福を受けることによって、決して消えることのないこのお方のみすがたと恵み深い言葉を彼らの感受性の強い思いに刻みこまれた。……青年たちの心はキリスト教の教えを最も受け入れやすく、敬神と徳へと感化を与えやすく、受けた印象を保つ力が強い。しかし、これらの傷つきやすく、若い人々は親切をもって近づき、愛と忍耐をもって教えるべきである。(教会への証 4 巻 141,142)

幸福な雰囲気の中で訓練する

「あなたがたは、これらの小さい者のひとりをも軽んじないように、気をつけなさい。あなたがたに言うが、彼らの御使たちは天にあって、天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰いでいるのである。」(マタイ 18:10)

多くの親は自分の子供たちが自分自身と他の人々の祝福となるよう有用性と義務のために教育するという神に対する自分の責任を忘れている。(教会への証 4巻 368)

あなたの子供たちに親切に話さない。父親がた母親がた、自分がいかに傷つきやすいか、非難されることに対していかにわずかしかな耐えることができないかを覚えていなさい。自分の子供たちもあなたと同様であることをよく考え、理解しなさい。あなたが耐えられないことを自分の子供に負わせてはならない。もしあなたが批判や非難に耐えられないとすれば、あなたよりも弱く、同じほど辛抱できないあなたの子供たちも耐えられないのである。あなたの心地よい快活な言葉があなたの家庭の中で日光のようであるようにしなさい。あなたの側における自制、思いやり、そして努力は、幾百倍にも報いられる。

父親も母親もだれ一人として、あら探しや小さな間違いや些細なことに対する厳しい批判によって、自分の子供たちの幸福をくすませ、陰鬱な雲をもたらす権利は、一切ない。実際の悪や罪は、罪深いありのままの状態で表されるべきであり、似たような罪や悪が再発することを防ぐために、断固とした堅実な行動がとられるべきである。彼らが自分たちの悪を自覚できるように印象づけなさい。彼らの思いが希望のない状態で放っておかれてはならない。彼らの思いに勇気を残し、彼らがそれを活用してあなたの信用と是認を得ることができるようにしなさい。(霊的賜物 4巻 143,144)

天の家が、キリストのご臨在なしには祝福の家となることがないように、地上の家もこのお方の永続的な愛がなければ幸せな家とはならない。(サイン・オブ・サ・タイムズ 1893年7月3日)

主が父親と母親に自分たちの責任の神聖さを印象づけて下さるように。あなたが主を畏れるように自分の子供たちを育てることにおいて主と一つになるとき、何の準備をしていることになるのか、より高い責任について述べようとしたが、それができない。子供たちを訓練するよりも高い責任はないのである。彼らがバランスの良い均整のとれた男女へと成長し、人類同胞のために役に立ち、主の宮で輝く準備ができるように、彼らをいかに訓練するかを研究しなさい。(同上 1909年3月3日)

6月23日

自制と感謝

「父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。」(エペソ 6:4)

現在子供の不従順を悲しんでいる多くの人は、自分を責める以外にない。こういう人は聖書を見て、親として保護者として神が彼らに定めておられることを知るべきである。彼らは長い間おろそかにした責任をとりあげなければならない。へりくだって、子供の教育について神の指示に従わなかったことを神の前に悔い改めなければならない。彼らは自分自身の行動を変えて、聖書を自分の案内者、相談者として、厳密に注意深くそれに従わなければならない。(アドベンチスト・ホーム 201,202)

もし親が自分の子供たちに自制を教えたいと望むなら、彼ら自身がまずその習慣を形成しなければならない。親の小言やあら探しは、その子供たちのうちに短気で感情的な気質を促進する。愛と正義は、家庭の統治において共に立ち並ぶべきである。親の権威に対するすみやかな服従を変わることなく強化しなさい。神は親に子供たちの品性を神聖な型に従って形成するという彼らの仕事をお与えになっておられる。このお方の恵みによって、彼らはこの働きを成し遂げることができる。しかし意志を導き、感情を抑制するためには、忍耐強い骨折りの努力と、また堅固さと献身が要求される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年11月24日)

小言は決して許されない。親からの譴責と批判はその時と場所がなくてはならないが、家庭を居心地の悪い場所にするほど、家庭生活の交わりに入り込んでほならない。往々にして、多くの公での批判よりも、人のいないところでのまじめな一言の方がたやすく欠点を直す。(健康改革者 1874年2月1日)

わたしたちは自らを制した時に初めて、自分の子供たちを制することができる。しかし、自分たちの先天的後天的悪への傾向を自分と一緒に家庭生活に持ち込んでいる親が非常に多い。彼らは自分たちの子供らしさを後にしてこなかった。彼らは決して気に留めるべきでないようなことで自分の子供たちに小言を言う。ご両親がた、決してあなたの子供に小言を言ってはならない。彼らを断固として、しかし親切に扱いなさい。彼らを忙しくさせておきなさい。彼らが家族という会社の一部であること、そして母親や父親を手伝うことができることを感じさせなさい。彼らがあなたのためにしてくれたことを感謝しなさい。(彼を知るために 149)

静かな一貫性

「父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから。」
(コロサイ 3:21)

子供たちはしばしば乳児のころから甘やかされ、悪習慣が固まってしまう。親は苗木を曲げてしまったのである。彼らの訓練方法によって、品性は醜いものにも、均整のとれた美しいものにも発達する。しかし、多くの者が甘やかすという方面で間違いを犯す一方では、他の人々は反対側の極端へ進み、自分の子供たちを鉄の杖で支配する。これらのいずれも聖書の指示に従ったものではないが、両方とも恐ろしい働きをしているのである。彼らは自分の子供の思いを形成しているのであり、自分たちがこのようにしてきた方法に従って、神の日に会計報告を提出しなければならない。永遠がこの生涯でなされた働きの結果を明らかにする。「細枝が曲げられた通りに、木は曲がる」……

もしあなたが子供たちの愛と尊敬を得たいならば、あなたは彼らへの愛情を表さなければならない。感情をほしいままにすることに言い訳の余地はない。それはいつも盲目でゆがんでいる。……

モーセはこの地上に生きたすべての人にまさって柔和であったが、あるとき神のご不興をこうむった。彼はイスラエルの子らの水を求めるつぶやきに非常に悩まされた。彼にふりかかった不当な民の非難が、一瞬、彼にこのつぶやきが自分に対してではなく、神に対してであることを忘れさせた。(教会への証 4 巻 368,369)

クリスチャンの同志よ、魂はあなたがこの世の生活の煩いによろめいているか、あるいは将来の不死の生涯のために準備をしているかどうか、あなたを見ているのである。彼らはあなたの生活の感化力を調べるために、すなわちあなたが家庭において真の伝道者であり、自分の子供たちを天のために訓練しているかどうかを見るために見張る。

クリスチャンの第一の義務は家庭の中にある。父親がた母親がた、あなたの責任は、大きな責任である。あなたは自分の子供たちを命か死のために準備している。あなたはこの地上に住み、またこの生涯における自己満足のためか、あるいは神をとこしえに讃美する不死の生涯のために、彼らを訓練しているのである。どちらであろうか。神があなたがたにお委ねになった一人びとりの子供が神聖な型を受けるようにすることが、あなたの生涯の重荷となるべきである。(キリストを映して 167)

6月25日

聖霊を通しての礼儀

「見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たちとは、シオンの山にいます万軍の主から与えられたイスラエルのしるしであり、前ぶれである。」(イザヤ 8:18)

真の礼儀正しさは、教訓のように、人生のある時の一回の努力で学べるものではない。それは幼児の時に教えられ自然なものとならなければならない。「悪気はないが、乱暴」とは多くの人について言われることである。そしてあまりにもしばしば問題の始まりは家庭における親にある。夫が夕べに家に帰って来た時にスリッパをもってきてくれた妻に「ありがとう」とほほ笑むことは難しいことであろうか。母親が、そっけなく「ドアを閉めなさい!」と言う代わりに、「ジョン、ドアを閉めてくれる?」と言うことはさらに難しいことであろうか。トムが自分の妹の赤ちゃんの家をひっくり返してしまったときに、なぜ、「ごめんね、そんなつもりじゃなかったんだ」という謝罪の言葉がさっと本能的に出ないのであろうか。

他人や世の中の外の友人には、無礼の罪がない多くの人々も、すべてではないとしても大いに、家庭の輪に入ると温和なふるまいをやめてしまう。夫や妻は、これらの小さくても決して重要でないとは言えない小さな礼儀正しい注意を払わずに済ませてしまう。子供たちは厳しい言葉であちらこちらと命じられるが、数知れないほどの用事に奔走する小さく疲れを知らない足に、「ありがとう」の報いが無い。夕食は沈黙のうちに食され、ときどき親のあら探しや譴責、あるいは子供同士の悪い冗談やからかいによってその沈黙が破られるだけである。夕べには父親は新聞に、母親は自分の縫物に没頭し、ときどき「子供たち、静かにしなさい」「けんかをやめなさい」そしてついに「もう寝なさい」といった有無を言わせぬ命令を与えるために中断するくらいである。

多くの家庭では、お互いの間でめだつた無礼さはないが、ただこれらの単純で愛情深い注意とそれに対して直ちに應じるものがないだけである。すべての家庭における快適さのよい泉である思いやりや優しさのふるまいが欠けている。……朝食や夕食の食卓を家族だけで囲むときにも、来客があるときと同じ礼儀が行き渡るべきである。譴責、不平、不愉快な論争や醜聞は、陰鬱な沈黙と同様に追い払うべきである。(健康改革者 1874年2月1日)

まれであるが喜ばしい光景

「幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた」(マタイ 21:16)

家族の小さい者たちが、自分より年配の人々にさっと気配りの小さな行為を果たすのを見ることほど、心地よい光景はない。ママのために温かい場所に大きな肘掛椅子をもってきたり、おばちゃんのために足台をもってこようと走りに行ったり、パパのメガネをさがしたりなど、たくさんの小さな行為がこの上ない愛する心を示す。しかし、もしママが決して「ありがとう、かわいい子」と笑顔を返さなかったり、もしパパが「ちょうど欲しかったんだよ、スージー」と小さな心遣いを感謝していることを示さなければ、子供たちはすぐにこの習慣をやめてしまう。小さな人々は、真似をする被造物であり、自分の周りの精神をすぐにとらえる。であるから、もし母親のコットン糸巻きが彼女のひざから落ちたときに、父親がさっとそれを拾いあげると、輝いている目はその行為を見ていて、素早い思いはそれを記憶する。模範によるほうが、教訓によるよりも何千倍も速く、子供たちは互いに親切に話し、好意に感謝し、優しく私心のないものとなり、家族の快適さを思いやり考慮することを教えられる。……

ある家庭では、反論と議論の精神が調和を損なっている。すべての言葉があたかも切り刻まれるように調べられ、一言一言の絶対的な正確さが評価される。重要でない正確さを見張り、ただ批評にさらすために批評にさらすとき、交わりの自由は深刻なまでに妨げられる。兄弟も姉妹も共に、ときにはほとんど無意識に、半分本気で半分ふざけて互いにかからかう習慣を身につける。これは特に、当事者がどのような疑わしい楽しみを経験したとしても、他のすべての人にとって居心地の悪いものである。

真の礼儀がいきわたっている家庭では、その敷居であなたを出迎えるかのようなのである。あなたは入るときに親切な歓迎を感じる。ぶしつけな目があなたの衣服を入念に調べたりはしない。二階で怒声が聞こえたりしない。不機嫌な子供たちが部屋に送り出されたりしない。主婦や使用人の怠慢をつくろうための有無を言わせぬ命令が与えられたりしない。間違いなく、しかし言葉に言い尽くせない喜ばしい雰囲気家庭に行きわたっている。(健康改革者 1874年2月1日)

6月27日

時間を越えた責任

「あなたを生んだ父のことを聞き、年老いた母を軽んじてはならない。」(箴言 23:22)

あなたは尋ねる、「親は息子や娘の思いや気持ちに関係なく、つれ合いを選ぶべきでしょうか」と。わたしはその質問をあるべきかたちにしてあなたに尋ねる。息子や娘はまず親に相談することなしにつれ合いを選ぶべきであろうか。もし親が少しでも自分の子供たちを愛していれば、そのような行動は大いに親の幸福に影響するものであるのに。そして、子供は自分の親の勧告や嘆願にもかかわらず、自分自身の道にあくまでも従うべきであろうか。わたしは断固として答える、否、決して結婚しないのでないかぎり、第五条はそのような道を禁じている。(教会への証 5 巻 108)

成人してから後でさえも、子供たちは自分の親を敬い、親の快適さに気を配ることが要求されている。彼らは信心深い親の勧告を聞きくべきであり、自分たちの人生に数年が加えられたからと言って、自分たちが彼らに対する義務から抜け出たと感じるべきではない。自分の父親と母親を尊ぶ者たちに対する約束の伴う戒めがある。この終わりの時代においては、子供たちは、神が特別に気づいておられ、終わりが近いしるしを構成しているその不従順と無礼で知られている。それはサタンがほとんど完全に青年たちの思いを支配していることを示している。多くの者は年配者をもはや敬わない。年配者を敬うことは時代遅れだと思われている。……

昔、子供たちは自分の親の同意なしに結婚することは許されていなかった。親が自分の子供たちのために選んだ。子供が自分自身の責任で結婚のちぎりを結ぶことは犯罪だとみなされた。事はまず親の前にもちだされ、彼らはその人が自分たちとの緊密な関係に入る価値があるかどうか、また当事者たちは家族を養うことができるかを考慮するのであった。彼らの家族が神から離れて導かれることがないように、まことの神の礼拝者である彼らが偶像礼拝者と雑婚すべきでないことは、最も重要なこととして考えられていた。子供たちが結婚した後でさえも、彼らは自分の親に対してもっとも厳粛な義務の下にいた。……彼らは彼らの願いが神のご要求と対立しない限り、それを尊重し、従うことが要求された。(同上 1 巻 217,218)

わたしたちの青年を守る

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

父親がた母親がた、あなたの子供たちはあなたの手許からどのように出てきているであろうか。あなたは自分の娘を正しく訓練し、彼女らのために徳ある品性という基礎を敷いているであろうか。(健康改革者 1877年 12月1日)

女性の真の魅力は、容姿の美しさとか、何らかのたしなみを身につけているとかいうことだけにあるのではなくて、むしろ柔和で穏やかな精神、忍耐、心の広さ、親切、そして他の人々のために喜んで尽くし、耐える事のうちにあるということ、女の子とたちに教えてやらねばならない。女の子とたちは、仕事をする事、何か目的をもって学ぶこと、目標をもって生活すること、神に信頼し神をおそれること、そして父母を敬うことを教えられねばならない。そうすれば、年と共に少女たちはいつそう清らかな心をもって育ち、自主的で、人々から愛される者となっていく。このような女性を墮落させることはできない。多くの人々を滅ぼした試練や誘惑を、彼女はまぬかれる。(家庭の教育 134)

親は眠っている。子供たちは恋愛病の感傷に夢中になっている。そして真理はこの悪を正す力がない。悪の潮流をとどめるために何をなし得るであろうか。親はもしそうしようと思えば、多くのことができる。……

もし女の子のつき合いがひんぱんに男の子や若い青年に求められているとすれば、何かが間違っている。その若い女の子は、彼女の場所を示し、彼女を抑制し、何とその年の女の子に属しているかを自分に教えてくれる母親を必要としている。

広くいきわたっている墮落した教理、すなわち健全な見地からいえば異性が互いに交じり合わなければならないという教理は、有害な働きをなしてきた。親や保護者がサタンの持っている利口さの十分の一でも持っていれば、異性の交わりはほとんど害がない。しかし実際には、サタンは青年たちの思いをくرامさせる努力に最も成功しており、男の子と女の子が交じり合うことはただ 20 倍も悪を増し加えるばかりである。……

親が目覚めない限り、彼らの子供に希望はない。(同上 455,456)

6月29日

恐ろしいほどの責任

「あなたに賜わった群れ、あなたの麗しい群れはどこにいるのか。」(エレミヤ 13:20)

多くの親は実際には、自分たちの不服従を言い訳し、故意の欠点の言い逃れをすることによって、自分の子供たちに自分たちに従わないよう教えている。……神は親に対する不服従と冒瀆を並べおかれた。

親に対する不服従は、直接、神への不服従へ導く。そこには一歩ほどの違いもない。自分の子供から服従を要求することを怠る親は、事実上、彼らに神のご要求に対して服従しないこと、すなわちいと高き天に対して罪を犯すことを教えているのであり、彼らの魂を危険にさらす。そのような道は、親と子供の双方に、また現世と来世の両方に、苦悩と不名誉と破滅をもたらす。働きが完成して取り返しがつかなくなったとき、親はときに遅すぎるときになって自分たちの生涯の過ちを認め、自分の子供の破滅の原因をゆりかごから成人にいたるまでのその子に対する自分たち自身の怠慢と責むべき愚かさにとりつくのである。

もし親が自分たちに委ねられた一人ひとりの子供に対して神に答える責任があることを自覚するなら、自分たちの貴重な時間をあえて、自分の家族の義務を除外してまで、飽きあきするほどの一連の流行や娯楽、また仕事にでさえ費やそうとはしないであろう。一人のなおざりにされた、あるいは悪習慣にふける魂は、すでに世に存在している罪を大いに増し加えることに加担する。無思慮な親の放縦によって助長されてきた欠点は、彼らの子供のうちに道徳的に損なわれた品性を創造する。そして今度はさらに悪いかたちで、それを彼らの子供たちに遺伝として残すのである。……

ご両親がた、あなたは子供たちを現世だけでなく、来世のためにも訓練しているのだということ覚えていなさい。罪のしみは祝福の住まいに入ることはできない。あなたが罪深い放縦によって、それほど大切に思っている子供をサタンのわなに捕らえてはいないことを確かめなさい。世のこの時代の親にはなんとという恐るべき罪の責任があることであろう！……永遠のために魂を訓練するのは彼らの義務である。しかし、彼らは自分の義務になんと及んでいないことであろうか！すべてが遅すぎるときになって目覚める日が来たとき、彼らの苦悩はどれほどのものであろうか。そして正義の裁き主が彼らの事情を審査して、彼らに「わたしが天の宮のために訓練するよう、あなたに授けた子らはどこにいるのか」と訪ねられるとき、彼らの報いはどのようなものであろうか。(レビュ・アド・ヘアム' 1878年 11月1日)

輪の向こうを見る

「主よ、われわれに臨んだ事を覚えてください。われわれのはずかしめを顧みてください。……われわれはみなしごととなって父はなく、母はやもめにひとしい。」(哀歌 5:1, 3)

家庭の輪のやわらげ抑制する感化力を奪われた人々のために非常に多くのことができる。多くの人が表す精神は、次の心の言葉を示している、「わたしは弟の番人でしょうか。わたしには自分の家族のほかに重荷も責任もありません。わたしは自分の家の部屋を借りている生徒たちに特別な重荷も関心もありません」。わたしはこれらの人々に自分自身の子供たちのためには重荷をもち、責任を感じているかと尋ねたい。ある親の側では、自分の子供たちを取り囲むすべての感化力がクリスチャン品性の形成のために好ましいものであるようにとの気遣いがあまりに乏しいことを見て遺憾に思う。しかし、自分自身の愛する子供たちのために魂の重荷をになう人々は、利己的に自分たちの関心を自分自身の家族に限定すべきではない。イエスが万事におけるわたしたちの模範であられる。しかし、このお方は、わたしたちがこのお方に従うと公言する多くの人が表すのを見るような模範を残してはこられなかった。もしわたしたちがキリストのうちに宿るならば、そしてこのお方の愛がわたしたちのうちに宿るならば、わたしたちはキリストがそのために死なれた人々を愛するのである。……もしキリストが自分自身の利益と都合と楽しみをお考えになったなら、この世はその罪と墮落のうちに滅びるままに取り残されたはずである。

魂の救いに関する奇妙な無関心がクリスチャンだと公言する多くの人々をとらえているようである。罪人たちは彼らの周りの至る所で減んでいても、彼らはこのことに関して特別な重荷をになわない。キリストはこれらの無関心な人々に、「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と言われるであろうか(マタイ 25:23)。キリストの喜びは、ご自分が魂のために払われた犠牲を通して、彼らが贖われることを見ることから成っている。(クリスチャン教育の基礎 50,51)

「わたしとわたしのもの」の利己的な愛が、多くの人々を他の人々に対する自分たちの義務を果たすことを妨げてきた。(教会への証 4 巻 423)

家庭の宗教をためすいちばんよい試験は、家庭の感化によって形成される品性の型である。行動はどんな敬虔なことよりも大きく語る。(アドヴァンスト・ホーム 24)

なぜなら、覚えていますか、エノクの時代にアダムはまだ生きていたのです。おそらくは、世界と人を造られたことから神の愛を学べば学ぶほど、今度は自分がまごころから神を愛そうと決心するようになったのでしょう。さらにまだそれ以外のことがあったからこそ、そうなったのかもしれませんが。

聖書は、エノクが「メトセラを生んだ後、」神と共に歩んだと述べています。それは、この小さい男の子が生まれた後でした。パパにとって、小さい男の子を持つということは、大きな意味を持ちます。そしてエノクが美しい思いで、自分の尊い赤ちゃんを見るときに、神が自分にご自身のような子供を与えて下さった神の驚くべきいつくしみ深さを考えて、かつてなかったほど自分の心を神に捧げ、生涯をかけて、このお方を愛し、仕えようと約束したのは十分あり得ることです。

いずれにせよ、その時から、エノクは神と共に歩み、つまり、彼らは歩み続けました。そして彼らが共に歩むときに、互いに語り合いました。神さまが他の人には明かせない「秘密」もです。

エノクが将来についての神さまのご計画をたくさん学んだのもこの時でした。これがあの偉大な預言を書くことができた理由です。「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。」彼はわずかに「アダムから七代目」でしたが、神さまはイエスさまがその栄光のうちに来臨されるすばらしい日にいたる時代まではっきりと見る事ができるよう彼を助けてくださいました。

このように、神と共に 300 年間歩いたあと、「神が彼を取られた」。新約では、「エノクは死を見ないように天に移された。…彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。」

これは、人が残す記録としてすばらしいものではないでしょうか。「神に喜ばれた者」。あなたについても、こう言われることができますか？あなたは毎日、神をお喜ばせしようとしていますか？いつも？

神と共に歩み、一つ一つの考え、言葉、行いにおいて神を喜ばせようとする事は、すばらしいことです。そしてわたしたちがこうするなら、もしかしたら、いつかエノクのように、わたしたちもまたまっすぐに天国へ入っていくことがないとはかぎりません。

豆乳マヨネーズ

■材料

豆乳	半カップ
にんにく	1 かけ
塩	少々
オリーブオイル	適量
レモン汁	大さじ1 程度
タイム	少々

■作り方

1. 豆乳ににんにくと塩を入れて、ハンドブレンダーでよく混ぜます。
2. その後、オリーブオイルを細く入れ続けながら、攪拌を続けます。すると、とろっとしてきます。少しとろみが出る程度で止めます。
3. レモンひとさじを入れて、スプーンで混ぜます。するとさらに固まり、マヨネーズほどの方さになります。

レモンや塩の量は、好み次第です。

今回はタイムをご紹介しましたが、他のハーブでもおいしいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

- 福音の宝
- 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第21話

天へ歩いていった人(II)

ただエノクだけでした。彼は他のすべての人と違っていました。彼は心を尽くして神を愛しました。彼には一つの目的がありました。それは神に仕え、そのみ旨を行うことでした。彼は一日中、神について考え、一つ一つの言葉や行動において、神をお喜ばせしようと奮闘しました。彼の心には、利己心も、貪欲も、嫉妬も、怒りも何一つありませんでした。なぜなら、彼はそのような悪の考えは、神の子としてふさわしくないと信じていたからです。

神がこのいとおしい人に引きつけられたのも不思議ではありません。事実、わたしは神が「ここにわたしの心にかなう者がいる。彼こそ、すべてのアダムの子らになってほしいと望んだとおりの者である。愛するエノクよ!なんと気高く、信心深い魂であろう!」と言われるのが聞こえるかのようです。

「エノクは…三百年、神とともに歩…んだ。」



長い月日ですね。しかし、神は彼をためし、彼の毎日、毎瞬間を見守っておられました。そして神が彼を見れば見るほど、ますます愛するようになりました。一日ごとに、一週間ごとに、ひと月ごとに、一世紀ごとに、エノクは神と共に歩み、ついに、死ぬかわりに、そのまま天の中へとまっすぐ歩き続けたのです!

何がエノクにこのような生涯を送りたいと思わせたのでしょうか。もしかしたら、それはアダムと話した結果だったかもしれません。

(67 ページに続く)